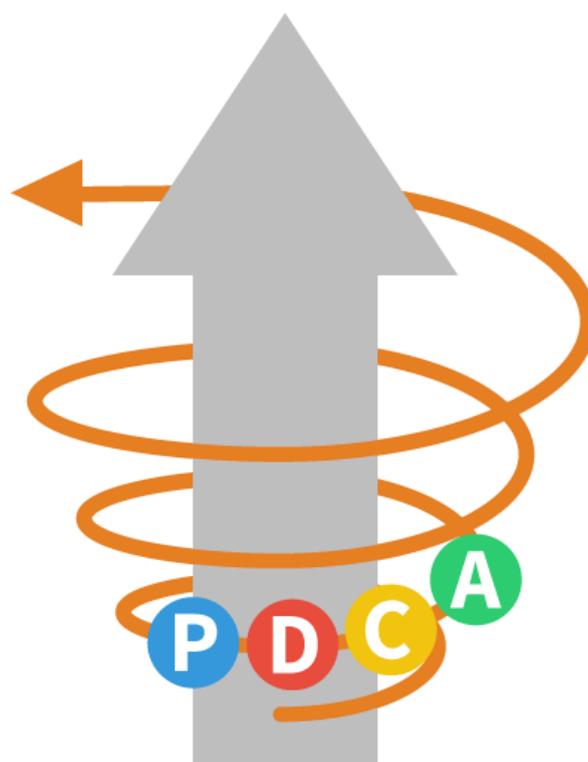


令和4年度分

## 三朝町教育委員会の事務に関する評価報告書



三朝町教育委員会



# 目 次

1	はじめに	1
2	目的	1
3	点検・評価の内容	1
4	議会・町民への報告	1
5	評価の対象及び手法	1
	(1) 評価対象事業	1
	(2) 評価の手法	2
	(3) 評価の基準（4段階評価）	2
6	評価結果の概要	2
	(1) 内部評価	2
	(2) 教育委員会評価	2
	(3) 教育行政評価委員会評価（外部評価）	2
	(4) 評価結果の総括	3
7	令和4年度施策と成果指標	4
8	評価結果と各委員の意見等	8
	(0) 令和4年度三朝町教育事業計画における重点項目	8
	(1) 未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現	12
	(2) ふるさとを学び・愛する「みささ人（びと）」の育成	15
	(3) 安心・安全な教育環境整備と地域と共に歩む学校づくり	18
	(4) 生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進	20
	(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現	22
	(6) 文化、伝統、地域資源（文化財）の継承と芸術の振興	26
9	教育委員の活動状況報告	28
	(1) 教育長・教育委員の在任状況	28
	(2) 委員の異動	28
	(3) 教育委員会会議の開催状況	28
	(4) 小中学校及び園への計画訪問	31
	(5) その他の主な活動	31

## 1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成 20 年 4 月から教育委員会の責任体制の明確化を図るため、各教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を公表することとされています。

## 2 目的

地教行法第 26 条の規定に基づき、教育委員会は教育に関する事務の管理や事業の執行状況について点検及び評価を行い、効果的な教育行政の推進に資するとともに、事務事業における透明性の確保と町民への説明責任を果たすことを目的とします。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 3 点検・評価の内容

三朝町教育委員会は、「ふるさと」を輝かせ 心豊かに学び合う “みささ人（びと）” の育成」を基本理念として令和 2 年 5 月に改訂した「三朝町教育大綱」の基本方針と、「みささっ子教育ビジョン」の基本目標及び具体的施策に沿った具体的事業の実績をとりまとめ、それぞれの目標値に照らし合わせた成果と課題を基に内部評価を行った後、学識経験を有する者等の識見を活用するため教育行政評価委員会からの意見を聴取し、客観性を確保するとともに今後の課題や改善策をまとめました。

計画 (Plan・教育事業計画) → 実行 (Do・事業実施) → 検証 (Check・第三者評価) → 改善 (Action・事業改善) の PDCA サイクルを回すことにより、教育行政の効果的な事業推進を図ります。

## 4 議会・町民への報告

報告については、「三朝町教育委員会の事務に関する評価報告書」として議会に提出した後、本町のホームページに掲載し、広く町民の皆さんが閲覧できるようにします。

## 5 評価の対象及び手法

### (1) 評価対象事業

三朝町教育大綱及びみささっ子教育ビジョンに基づき策定した令和 4 年度教育事業計画に掲載した 62 の具体的事業を対象としています。

## (2) 評価の手法

教育行政評価シートにより、内部評価として各事業の実施状況及び成果と課題について事務局で点検・評価を行い、それをもとに教育委員会会議において三朝町教育大綱の基本方針別みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策ごとの評価を実施した後、教育行政評価委員会による外部評価を行って問題点を明らかにし、課題や具体的な改善内容、今後の方向性を検討するとともに、三朝町教育大綱の基本理念に沿った教育行政が執行されているかどうかに着目して評価を行いました。

## (3) 評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

# 6 評価結果の概要

## (1) 内部評価

内部評価は、令和4年度三朝町教育事業計画において目標値を設定した62の具体的事業について、前述の評価基準により事務局が4段階で自己評価を行いました。

達成度	A	B	C	D
具体的事業数（事務局評価）	41	14	4	3

## (2) 教育委員会評価

教育委員会評価は、内部評価の結果をもとに、令和4年度三朝町教育事業計画における重点項目と三朝町教育大綱の基本方針6区分別みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策ごと（全29項目）について、教育委員が評価を行いました。

達成度	A	B	C	D
具体的施策数（教育委員会評価）	18	10	0	1

## (3) 教育行政評価委員会評価（外部評価）

外部評価は、内部評価と教育委員会評価の結果をもとに、教育行政評価委員が客観的な見識で4段階評価を行いました。

【令和4年度分 三朝町教育行政評価委員】（順不同）

氏名	選出区分
山崎 一彰	地域代表（地域協議会の役員）
川北 和美	保護者代表（学校の保護者会の役員）
吉田 朋幸	学識経験者

#### (4) 評価結果の総括

令和4年度分の点検・評価においては、評価項目ごとに各委員からさまざまな意見や具体的な改善案の提案をいただきました。

まず、3年に渡って続いたコロナ禍において、できることをできる形で取り組んでいく「with コロナ」の考え方を大事にすべきという意見を今回も多くいただきました。事業を中止することは簡単ですが、実施できる形を模索するにはひと手間もふた手間もかかります。しかし、教育における需要は待ったなしであり、実施するためにかかる工夫が三朝町教育大綱における基本理念実現へつながっていくものだというのを、あらためて各事業実施の際に考えていく必要があります。

そして、令和4年度も引き続いて重点事業としていたコミュニティ・スクール推進事業と小学校施設整備事業については、運用や工事着工という本格的な動きとなっていくにあたり、みさきっ子教育ビジョンで示す目指す子ども像の実現を視野に、本町における将来の教育のあり方を見据えた取り組みとして、関係機関と連携しながら町が一丸となって進めていくことを再確認するとともに、細やかな配慮や運営体制の骨格整備についても注力するよう求められていることが明らかとなりました。

全体の点検・評価結果をとおしては、特に学力アップ土曜学習事業や三朝町・城陽市文化スポーツ交流事業において、取り組みを途切れることなく行うべきとの意見をいただきました。また、人権学習については、創意工夫により多くの町民が参加できる効果的な取り組みを検討すべきとの指摘や、図書館についても、柔軟な発想で利用者が継続して来館したくなる図書館を目指してほしいという提案もいただきました。教育委員及び教育行政評価委員の意見については、「8. 評価結果と各委員の意見等」に記載しています。

教育活動は、事業の実施による結果が直ちに出るものは少なく、その成果を示すことが難しいのが実情です。しかし、成果を検証して改善を加えていくという観点から、適切だと判断される数値等の目標を掲げ、課題解決に向けた取り組みを行うことは必要です。三朝町教育大綱における基本理念の実現を目指し、社会の変化や時代の発展を見据えた教育行政を推進するため、教育上必要な需要を的確に把握し、事業の必要性や優先度を十分検証したうえで計画的に事業を執行していくことが重要であり、かつ、限られた財政状況の中で事務の効率化を図り、国県補助等を活用した財源の確保に努める必要があります。

三朝町教育委員会では、今回の評価結果を踏まえた今後の方向性等を次年度の教育事業計画に反映させ、最良と思われる取り組みとして各事業を進めていくこととしており、今後も定期的に事業の点検と評価を実施しながら、必要に応じて積極的な事業の改善や見直しを行い、効果的な教育行政の推進に努めていきます。

令和5年5月  
三朝町教育委員会

## 7 令和4年度施策と成果指標

三朝町教育大綱基本方針別みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策にかかる具体的事業  
※オレンジ色は重点事業

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R4 目標値
(1) 未来を拓く 「生きる 力」を育て る「みささ 教育」の実 現	(1) 確かな学力の育成 Ⅰ. 学ぶ意欲の醸成と学力向上	1. 三朝町教育 I C T 学びの充実推 進事業	小中学校における標準学力調 査の5教科正答率 全国平均 以上 小中学校におけるタブレット 端末の活用 毎日
		2. 学力アップ土曜学習事業	中学3年生における標準学力 調査の5教科正答率 全国平 均以上
	Ⅱ. 教育課題に対応する教育の 推進	3. みささイングリッシュシャワー プログラム	就学前児・小学校低学年への 外国語教室 各月2回
		4. 外国語指導助手活動事業	英検 I B A リーディング・リス ニングテストの総合スコア 英検4級合格レベル以上
	Ⅲ. 特別な教育的支援の充実	5. 学校運営支援員配置事業	特別支援に関する研修会 年 2回 就学前訪問 各園年3回
		6. 通級指導教室事業	小中学校各教室の年間を通じ た適切な運営
		7. 特別支援教育事業	特別支援教育に関する教職員 アンケートにおける肯定的な 回答 6割以上
	Ⅳ. 学びの連続性を重視した教 育の推進	8. 園小中連携の推進	園小中連携会議 年6回以上
		9. 小中連携教育の推進	小中連携教育に関する教職員 アンケートにおける肯定的な 回答 6割以上
	(2) 豊かな心の醸成 Ⅰ. 豊かな心の育成	10. いじめ・不登校対策事業	心の状況調査 小学校年1 回、中学校年2回 調査実施後の個別教育相談 年1回
		11. 不登校対策支援員配置事業	中学校不登校出現率 前年度 以下
		12. 心の教室相談員設置事業	心の教室利用者数 30人/ 月(平均)以上
	(3) 健やかな体の育成 Ⅱ. 健康教育の推進	13. 命を大切にする学習事業	授業実施回数 各校年2回以 上
	(5) 豊かに関わる力の育成 Ⅱ. 多様な交流活動の充実とコ ミュニケーション能力の向 上	14. 中学生フランス交流事業	全校生徒が事業に触れる機会 年3回以上
		15. 中学生台湾交流事業	全校生徒が事業に触れる機会 年3回以上
		16. 小学校相互交流事業	オンラインによる学校間交流 の実施
		17. 大人の背中運動	学校と連動し児童生徒を主体 としたあいさつ運動の実施 年3回
		18. 三朝町・城陽市文化スポーツ交流 事業	参加者数 上限の70%以上 参加児童の交流満足度 70%

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R4 目標値
(2) ふるさとを 学び・愛する「みささ 人(びと)」 の育成	(4) ふるさと愛の醸成 Ⅰ. ふるさとを愛する教育の推 進	19. 創意と特色ある学校づくり推進 事業	各校で独自の特色ある学習の 実施
		20. 総合的学習事業	各校で体験学習の実施
		21. みささ町かがやく子どもフェス ティバル開催事業	来場者数 500 人 事業参画団体 10 団体
	Ⅱ. ふるさとに触れる機会の充 実	22. 地域が育てる子ども総合対策事 業	あおぞら体験塾参加者数 30 人/回 体験塾に参加して楽しかった と回答した児童の割合 70%
		23. 青少年育成町民会議補助金事業	時代に即した青少年育成活動 の支援 賛同団体 5 団体以上
	(5) 豊かに関わる力の育成 Ⅰ. 社会参画意識の醸成	24. 青少年団体育成事業	中学生・高校生参画事業の実 施 中高生のボランティア参加
	(6) 教育コミュニティづくりの 推進 Ⅰ. 地域一円の学校支援	25. コミュニティ・スクール推進事業	学校運営協議会の開催 学校ボランティア登録者のボ ランティア実施率 70%
	(7) 教育環境の充実 Ⅰ. 学校教育における質の向上	26. 教職員指導力向上研修事業	教職員集合研修機会の提供 年 5 回以上
	Ⅱ. 学校施設の整備充実	27. 学校施設維持修繕事業	小中学校緊急的維持修繕への 対応
		28. 小学校施設整備事業	実施設計内容に沿った建設工 事の円滑な進捗管理
		29. 教科書改訂特別事業	学習指導要領改訂及び特別支 援学級への進級に伴う教師用 教科書・指導書、デジタル教 科書等の整備
		30. OA機器等備品整備事業	教育用サーバー一式更新 小学校校務用PC更新 小学校教室用プロジェクター 整備
		31. 調理センター施設管理事業	施設の確実な点検の実施
	Ⅲ. 児童生徒の通学支援	32. 放課後児童対策事業	利用希望児童受入率 100% 指導員研修の実施 年 1 回以 上
		33. 高校生等遠距離通学費補助金事 業	補助対象生徒の制度利用率 90%
		34. 小中学校遠距離通学費補助金事 業	補助対象児童生徒の制度利用 率 100%
		35. 就学援助事業	対象者への必要な援助の実施

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R4 目標値
(4) 生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進	(2) 豊かな心の醸成 Ⅱ. 情操教育の推進	36. 中学校運動部活動外部指導者派遣事業	必要な外部指導者等の配置 外部指導者 3人、外部指導員 3人
		37. 三朝町スポーツ少年団補助金事業	団員数 160人 単位団指導者研修会、支援の実施
	(3) 健やかな体の育成 Ⅰ. 体力向上の推進	38. スポーツ推進委員活動事業	スポーツ推進委員主催事業の企画・実施(スポーツ教室など)
		39. 三朝町体育協会委託金事業	各種スポーツ大会等参加者数 1,800人
Ⅱ. 健康教育の推進	40. 食育推進事業	県産地消費率 95%以上 園小中の食育取組成果発表年1回 給食レシピ公開 月1回以上	
(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現	(2) 豊かな心の醸成 Ⅰ. 豊かな心の育成	41. 人権啓発講演会等事業	人権講演会・講座等参加者満足度 80%以上
		42. 人権教育推進協議会委託金事業	人権学習機会の創出 学習活動延べ参加者数 1,000人
		43. 人権教育推進員設置事業	人権教育推進員のコーディネートによる人権教育の実施
	Ⅱ. 情操教育の推進	44. 移動図書館サービスの充実	各園・学童クラブ5か所 月1回 各集落・事業所等26か所 月1回
		45. 子どもたちの読書活動と学習活動を支援	お話会(各園・支援センター・美術館等) 58回 小中学校学習資料貸出 3,500冊 子どもが楽しめる行事 年2回
		46. 乳幼児の読書に親しむきっかけづくり	ブックスタート 4回/年 ブックセカンド 24組 健診時のおはなし会 7回
		47. 人と本の出会いの場づくり	テーマ選書展示 20回 教室の開催 24回
	(3) 健やかな体の育成 Ⅱ. 健康教育の推進	48. 家庭教育支援推進事業	園、学校における子育て親育ち講座の開催数 園3回、小中学校各1回
	(4) ふるさと愛の醸成 Ⅰ. ふるさとを愛する教育の推進	49. 生涯学習講座「三朝大学」開催事業	高齢者の生涯学習機会の提供 受講者の年間満足度 80%以上
	Ⅱ. ふるさとに触れる機会の充実	50. 気軽に利用しやすい図書館づくり	入館者 25,000人 登録者 6,500人 貸出冊数 個人 75,000冊 団体 18,000冊 (移動 15,000冊)
		51. より豊かで質の高い蔵書体系の構築	蔵書 110,000冊

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R4 目標値
(5) 生涯学び、 成長できる 豊かな暮らしの 実現	(4) ふるさと愛の醸成 Ⅱ. ふるさとに触れる機会の充 実	52. ニーズに応えるきめ細かなサー ビスの提供	リクエストサービス 6,500 件 相互貸出サービス 4,000 件 相談業務（リファレンス） 2,000 件 障がい者サービス 500 件
		53. 情報発信の強化	ホームページ更新（月 3 回）
		54. 郷土資料の収集・適正管理保存・ 提供	新規収集・適正保存 100 冊 展示による周知・継承 年 1 回
		55. 地域住民の活動発表、コミュニテ ィの推進	特集・共催展示 10 回 図書館行事 10 回 ミニ講座 2 回 図書館ボランティア推進 5 人
	(5) 豊かに関わる力の育成 Ⅲ. 視野の広い人材育成の推進	56. 未来を拓けみささっ子創造事業	中学生が自分の将来の参考にな ったと答えた回答率 70%
(6) 文化、伝統、 地域資源 （文化財） の継承と芸 術の振興	(2) 豊かな心の醸成 Ⅱ. 情操教育の推進	57. 青少年劇場開催事業	青少年劇場の開催 開催テーマに興味を持った生 徒の割合 50%
		58. 三朝町将棋フェスティバル開催 事業	イベント参加者数 80 人 将棋啓発イベントの企画
	(4) ふるさと愛の醸成 Ⅰ. ふるさとを愛する教育の推 進	59. 文化振興事業	三朝町文化サークルの支援 三朝町芸能文化祭の実施
		60. 三徳山遺跡発掘調査等事業	調査成果の整理と報告 坂本バイパス計画地の試掘調 査実施
		61. 世界遺産登録促進事業	調査成果報告会 年 1 回
		62. 日本遺産活用推進協議会補助金 （保存事業）	日本遺産三徳山三朝温泉を守 る会の支援

8. 評価結果と各委員の意見等

評価区分

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（70%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

令和4年度三朝町教育事業計画における重点項目

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(1) 確かな学力の育成 I. 学ぶ意欲の醸成と学力向上	1. 三朝町教育ICT学びの充実推進事業	継続	小中学校における標準学力調査の5教科正答率→全国平均以上 小中学校におけるタブレット端末の活用→毎日	小中学校へオンライン教材（タブレットドリル）を整備した。授業のみでなく、タブレットを持ち帰った際に家庭でもその教材を活用して学力向上に励むことができる環境を整備した。 (標準学力調査) 小学校 1～6年 3学期に1回実施 中学校 1～2年 1学期と3学期に実施 3年 1学期に実施  GIGAスクール構想の実現に向けた計画書に基づき、学校における教育ICT機器の活用を支援するため、ICT支援員を週2回半日ずつ各校へ派遣。教材作成や授業支援を行った。 また、ICT活用教育推進地域の県指定を受け、教職員の活用能力の向上及び児童生徒の活用機会が増加するよう努めた。 令和3年度に教職員のICT活用能力向上のための研修を月2回程度実施した成果が表れており、ほぼ毎日授業においてタブレットを活用しているため、教職員の活用能力の向上及び児童生徒の活用機会が増加した。 令和4年度はタイピング能力向上も図るため、ゲーム感覚でタイピングが学べる無料のソフトを導入した。	【成果】〔標準学力調査〕 小学校 各学年の全教科平均において、3～10ポイント全国平均を上回った。 中学校 1、2年生は全国平均を2～4ポイント下回った。3年生は6ポイント上回った。 ICT支援員の配置により、授業等における教育ICT機器の活用がさらに加速し、毎日機器を活用している。令和4年度からは、効果的な活用方法についての検討を進めるとともに、学力との相関を検証している。 また、端末の持ち帰りが非常に増えたことで、オンライン教材の活用機会が増え、生徒会活動等でのタブレット使用に伴い、児童生徒のタブレット活用機会がさらに増えている。  【課題】 各教科において、既習事項を活用、発展させる力に課題がある。小中で連携を意識した教科指導を重点目標とし、授業改善を進めていく。 また、使用している教材が真に児童生徒に適しているか、今後、整備すべきオンライン教材について検討する必要がある。また、家庭においても整備したオンライン教材の活用を進める必要がある。 そして、活用推進が進むにつれ、インターネットモラルの向上に今後は一層力を入れる必要がある。トラブルを防ぐことはもちろんだが、トラブルを起こさせない、起きた時の対処をさらに磨く必要がある。	B	B	B	◎ポイントを上げていくことも大切だが、わからないところが納得できるよう、一人ひとりにきめ細かい指導をお願いしたい。 ◎児童生徒のタブレット活用が年々進んでいるように思う。さらに子どもたち一人ひとりのポトムアップにつながる活用をお願いしたい。 ◎先生方のスキルアップが求められていると感じる。児童生徒と同様に、どの先生も使いこなせるよう、研修や取り組みを継続していただきたい。  ★GIGAスクール構想計画に基づく実施状況の成果で「学力との相関」の検証が課題になっているが、目標値達成だけに主眼を置くことなく、派生的なトラブル等の傾向と対策を十分留意していただきたい。 ★他方、ICT教育の最終目的は「自分で考え行動もできる創造的な人材の育成」だとされている。さまざまな”情報を収集する力”、その情報を整理し、主体的に”判断する力”を養う視点を大切にいただきたい。 ★コロナの濃厚接触者等で通学できない時、オンラインで授業に参加できたことはよかったと思う。インターネットモラルの学習も併せてお願いしたい。 ★中学校のレベルは、中部地区の範囲になっていると聞いている。継続してさらなる活用の充実を望む。 ★反面、活用が増えれば、トラブル発生リスクも増える。情報リテラシー等の指導も併せてお願いしたい。	1. 三朝町教育ICT学びの充実推進事業 →ICT機器の活用については、令和3年度に月2回の研修を行い、基礎的な活用能力の底上げを行ったが、先生により活用能力に差があるのが実態。県も全県の先生を対象に毎月希望者への研修等を行いスキルアップを図っている。特に中学校では、活用が得意な先生とそうでない先生で3人体制を編成し、指導・協同し合っている。 ドリルソフト等を通じて児童生徒個人の学習習熟度を見ることができているが、時間の問題もあり個別に先生が全て把握することはなかなか難しく、より有効なツールを町教委、先生と協力して検討していく。 三朝中学校区は、令和3年度から2年間「ICTを活用したとっとり授業改革推進事業」の実践校として取り組みを進めてきた。学習における効果的なICT活用について研修や授業実践を積み重ねており、中部圏内でも先進的な取組状況といえる。児童生徒の個別最適な学び、協働的な学びの実現に向け、さらなる活用を進めたい。 また、タイピングソフトを活用することで小学生のタイピングスキルが向上していることから、継続した取り組みを行う。 情報リテラシー・モラル教育は、速いスピードでICT活用方法やツールが多様化しているが、タブレットは便利な反面、恐ろしい道具にもなることを特に先生に理解していただく必要がある。県や民間団体からリテラシー・モラルについての研修案内が来るため、そういった機会を利用するよう推奨し、リテラシー・モラルの不足による事件やトラブル等を学校へ情報提供して危機感を持つよう促したい。加えて、児童生徒への指導については、日々の学習の中で学年に応じて適切に進めることとする。
(1) 確かな学力の育成 II. 教育課題に対応する教育の推進	3. みささイングリッシュワークショッププログラム	継続	就学前児・小学校低学年への外国語教室→各月2回	町内各保育園・こども園及び小学校において、教員、小学校外国語指導助手及びイングリッシュプログラムコーディネーターにより英語に触れる機会を提供。幼児期から中学校まで切れ目ない本町独自の英語教育を実践した。  保育園での外国語活動 月2回 小学校低学年での外国語活動 月2回 MESP担当者会 年1回	【成果】 園及び小学校での外国語活動及び英語教育を毎月2回実施した。中学校2年生を対象とした英検I B Aでは、英検3級程度に到達した生徒が1/3となった。 また、園、学校の外国語担当者による担当者会を1回実施した。 令和2年度に作成した英語学習プログラムは、各所属の担当に実施内容の見直しを依頼しており、令和5年度に更新する予定としている。  【課題】 外国語活動における小中の接続だけでなく、保育園及びこども園と小学校、中学校との活動の工夫について、MESPの中で検討を進めていく。	A	A	A	◎将来に渡り英語と関わるためのスタートとして、就学前・小学校低学年への英語教育は楽しく興味を持てる学習となるよう、引き続き保小中が連携して実施してもらいたい。 ◎園から小中までの継続した英語教育の成果が見える。 ◎非常に良い取り組みで、成果も着実に上がっていると思う。今後期待している。 ◎今後も就学前から中学校卒業までをとおして継続的な取り組みを期待する。  ★幼時期から中学校まで切れ目のない本町独自の英語教育の実践は評価できる。令和5年度の英語学習プログラムの見直しを機に、園小中の連携をさらに深め、実効性を高めていただきたい。 ★引き続き就学前から楽しんで英語に触れる環境整備をお願いしたい。 ★中学校における英語能力の高さは、一貫した指導の成果の表れだと考える。 ★今年度は、全国学テにおいても英語が実施されている。結果を分析し、今後の指導に生かすように願う。	3. みささイングリッシュワークショッププログラム →令和5年度全国学力学習状況調査の結果を各校で分析し、指導に生かしたい。 また、令和4年度末から小学校ALTが月に1回各園を訪問し、英語で園児と交流するようにしているが、就学時に望ましい園児の英語能力と興味について、園小で意識の統一が図れていないように思われる。令和4年度に見直された年間計画をもとに、各園でのALTの活用方法について検討を進め、3園の足並みをそろえたい。 加えて、小中でも英語学習に対する認識のズレが見られ、中学校の早い段階で英語に対する苦手意識が出てくる実態がある。小学校の英語の目標、内容等を小中が共通理解し、スムーズな接続、連携となるよう取り組みを進める。 大人も英語を学ぶことについて積極的になる必要があり、大人への英語教室みたいなものも検討したいと考えている。総合的に町全体で英語を楽しく学べる機会の提供と、児童生徒へ楽しく実効性のある英語活動の機会を提供するよう励みたい。

評価区分

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

令和4年度三朝町教育事業計画における重点項目

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(1) 確かな学力の育成 IV. 学びの連続性を重視した教育の推進	8. 園小中連携の推進	新規	園小中連携会議 →年6回以上	合同園長・校長会の開催 年5回 保こ小連絡協議会 年2回 三朝町就学指導連絡会 年3回  各所属長による協議や情報交換の場を計画的に実施し、子育て12か条の推進や就学指導におけるスムーズな移行支援を進めた。	【成果】 連携に係る会議は計画通り実施することができた。  【課題】 事業に対する協議や情報共有が中心となったため、各学校及び園の課題等を情報交換しながら、園小中が一体的に取り組むべき事柄を協議する場の設定も必要である。	A	B	B	◎連携が取れていると思う。 ◎園小中の連携を図ることは大変重要なことだと感じる。事業はもちろん、問題や課題の共有が円滑に行われるよう期待する。  ★学びの連続性をキーワードとした「園小中連携会議」で効果的な運営をお願いしたい。 ★連携し、情報共有することで、途切れない支援が続くようお願いしたい。	8. 園小中連携の推進 →連携会議で、各園・学校の様子を情報共有したり、課題について検討したりする場を設定することとする。
	9. 小中連携教育の推進	新規	小中連携教育に関する教職員アンケートにおける肯定的な回答 →6割以上	小中連携の重点項目としているICT活用教育、特別支援教育（通級指導）、生徒指導、学校図書館等、担当者による会議を定期的に開催し、連携を進めた。 新校舎運用後を見据え、教育課程上の課題を解決するために、管理職及び教務主任による協議を行った。	【成果】 令和4年1月策定「三朝町小中連携教育」に示した具体的施策の取り組みを進めるとともに、施策によっては担当者による協議をもとにさらに発展的な取り組みにしていくことができた。  【課題】 各担当者による協議内容を管理職が把握し、学校全体に周知していくような体制が必要である。	B			★小中の連携により目指す児童生徒像を明確化し、それに向かって推進することが大切。	9. 小中連携教育の推進 →目指す児童生徒像に向かって、校長会、各校担当者会等で協議した内容等を校内で共有し、実践につなげていくことができる校内体制を整えていく。
14. 中学生フランス交流事業	継続	継続	全校生徒が事業に触れる機会 →年3回以上	コロナ禍のため、令和4年度も中学生手作り訪仏事業は中止としたが、本町と友好姉妹都市提携を結ぶフランス共和国ラマルー・レ・バン町との交流を継続し、中学生における豊かな感性と国際感覚を身に付ける機会を提供するため、「国際感覚のあるみささっ子育成事業」として以下の取り組みを実施した。 ・食と遊び体験（中3希望生徒対象） ・フランス学習会（町国際交流員講師、中1～2全生徒対象） ・ラマルー出身小中学生とのオンライン交流（訪仏事業派遣希望生徒対象） ・給食でフランス料理（小中学校計年3回） ・親子でフランス料理づくり（中学校冬休み課題としてレシピ提供）	【成果】 派遣はできなかったが、国際感覚のあるみささっ子育成事業の取り組みとしてフランスに触れる機会を年間とおして提供することができた。これにより、次年度以降の派遣応募等への意欲醸成にもつなげることができたと考えられる。  【課題】 令和5年度に中学生派遣が再開することを見据え、派遣とならない生徒へも国際感覚を身に付ける機会を提供することに引き続き取り組んでいく。	A		◎海外に興味を持つ、国際的な感覚を身に付ける等、国際交流事業には大きな意義があり、三朝町教育の大きな特徴である。 ◎コロナ禍が収束し、国際交流が再開された際は、今まで以上に交流が意義深いものとなるよう期待する。 ◎オンライン交流等でコミュニケーションの向上は図れていると思う。 ◎派遣の有無に関わらず、全生徒が同じ学びができるよう今後も取り組んでほしい。  ★本町と姉妹都市提携しているラマルー・レ・バン町とは33年間の交流の歴史がありながら、事業そのものが形骸化してきているように感じる。中学生が豊かな感性と国際感覚を身に付けることと、自治体がフランス・台湾と国際交流することの背景と事業のあり方をもう少し明確に整理すべき。時代や環境変化の中、今一度本町の国際交流の原点と役割を再確認し、問題点や課題を議論し直してほしい。また、本町独自の「みささイングリッシュシャワー」や園小中連携教育などを体系的に組み合わせ、国際感覚の醸成を図る工夫をしてほしい。 ★コロナ過で派遣等はできなくても、オンラインやお互いの文化に触れ合うという工夫があり、よかったと思う。 ★コロナで派遣はかなわなかったが、オンライン等コロナゆえの工夫で交流できた。	14. 中学生フランス交流事業 →令和4年度も派遣ができない代わりに、全ての生徒がフランス交流に関われる取り組みを実施した。 令和5年度は3年ぶりに派遣ができる見通しとなっているが、全ての生徒がフランス交流に関われる取り組みとなるよう工夫するとともに、交流の歴史を学び、感じながら取り組める交流となるよう組み立てを検討したい。 加えて、園小中連携で取り組む英語学習もねらいとできるような取り組みとしたい。	

評価区分

令和4年度三朝町教育事業計画における重点項目

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(5)豊かに関わる力の育成 II.多様な交流活動の充実とコミュニケーション能力の向上	15.中学生台湾交流事業	継続	全校生徒が事業に触れる機会 →年3回以上	コロナ禍のため、令和4年度も台中市石岡区との中学生相互交流事業は中止としたが、三朝中学校と姉妹校協約を結ぶ台湾台中市石岡国民中学との交流を継続し、中学生における豊かな感性と国際感覚を身に付ける機会を提供するため、「国際感覚のあるみささっ子育成事業」として以下の取り組みを実施した。 ・食と遊び体験（中3希望生徒対象） ・台湾学習会（国際交流財団講師、中1～2全生徒対象） ・石岡国民中学生徒とのオンライン交流（中3全生徒対象） ・給食で台湾料理（小中学校年1回） ・親子で台湾料理づくり（中学校冬休み課題としてレシピ提供）	【成果】派遣はできなかったが、国際感覚のあるみささっ子育成事業の取り組みとして台湾に触れる機会を年間とおして提供することができた。これにより、次年度以降の派遣応募等への意欲醸成にもつなげることができたと考えられる。  【課題】令和5年度に中学生派遣が再開することを見据え、派遣とならない生徒へも石岡国民中学訪問団来町を契機として国際感覚を身に付ける機会を提供することに引き続き取り組んでいく。	A	B	A	◎海外に興味を持つ、国際的な感覚を身に付ける等、国際交流事業には大きな意義があり、三朝町教育の大きな特徴である。 ◎コロナ禍が収束し、国際交流が再開された際は、今まで以上に交流が意義深いものとなるよう期待する。 ◎オンライン交流等でコミュニケーションの向上は図れていると思う。 ◎派遣の有無に関わらず、全生徒が同じ学びができるよう今後も取り組んでほしい。  ★コロナ禍で派遣等はできなくても、オンラインやお互いの文化に触れ合うという工夫があり、よかったと思う。 ★コロナで派遣はかなわなかったが、オンライン等コロナゆえの工夫で交流できた。	
	16.小学校相互交流事業	継続	オンラインによる学校間交流の実施	本町と友好都市盟約を結ぶ滋賀県多賀町の小学校2校との児童相互交流を将来的に見据えながら、小学校教職員及び事務局職員による取り組み準備を進め、まずは学校間でオンラインによる交流を実施した。 三朝小 3年生全員 多賀小 5年生全員 大滝小 全校児童	【成果】令和4年度前半で多賀町において事務局間協議を行った後、小学校間でのオンライン交流に向けた調整を学校主体で行う形に移行し、年度内に初めてオンラインによる授業交流を実施することができた。  【課題】交流活動が単発で終わることなく、次年度以降も継続的にオンライン交流が実施できるよう体制づくりを進める。	A			◎オンライン交流等でコミュニケーションの向上は図れていると思う。  ★コロナで派遣はかなわなかったが、オンライン等コロナゆえの工夫で交流できた。	
	18.三朝町・城陽市文化スポーツ交流事業	継続	参加者数 →上限の70%以上  参加児童の交流満足度 →70%	姉妹都市盟約を締結する京都府城陽市と、両市町の児童を対象にスポーツ活動・文化活動を通じて相互に体験交流学習を行う事業。令和4年度は本町児童を城陽市へ派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、両市町及び保護者の意向を踏まえ事業中止となった。	【成果】事業が中止となったことで、特筆すべき成果を得ることが出来なかった。 また、代替事業も実施しなかった。  【課題】令和2年度から3年連続で事業が中止したことで、本事業への関心が低下していることが懸念される（事業自体を知らない児童、保護者が多くなる）。令和5年度は本町が担当（城陽市の受入）となることから、事業の目的及び内容を年度当初から児童、保護者に対して周知を図る等、本町児童の参加を積極的に促す必要がある。また、事業内容についても城陽市児童だけでなく、本町児童も「三朝町を知る」きっかけとなるような魅力ある内容を検討する必要がある。	D			◎派遣の有無に関わらず、全生徒が同じ学びができるよう今後も取り組んでほしい。 ◎城陽市と姉妹都市盟約を締結していることについて、保護者をはじめ、町民にもっと周知される必要があるのではないかと、知らない町民が多いと感じる。  ★スポーツ以外でもオンラインでお互いの町や文化交流が図れたらと思う。知らない方が多いと思う。 ★実施できなかったのは残念だった。	18.三朝町・城陽市文化スポーツ交流事業 →令和5年度は三朝町に城陽市児童を受け入れる。4年ぶりの実施にあたり、多くの児童に参加してもらえようPRを強化する。 また、実施した成果を広く発信していきたい。
(6)教育コミュニティづくりの推進 I.地域一円の学校支援	25.コミュニティ・スクール推進事業	継続	学校運営協議会の開催  学校ボランティア登録者のボランティア実施率 →70%	学校運営協議会委員の委嘱 小学校 14名 中学校 16名 学校運営協議会の開催 小・中合同開催も併せて 5回開催 ・ボランティア登録者数 20名 ・延べ活動日人数 143名	【成果】運営協議会を小中合同も併せて5回開催して、運営協議会として目指す子ども像『ふるさと「みささ」を愛し、主体的に行動できるみささっ子』について確認した。 ・登録ボランティア実施率90.0%  【課題】地域との連携を密にし、学校協働活動を実施する。 今後、学校と地域を繋ぐコーディネーターの配置について、運営協議会の中で必要性、業務量など、学校ボランティアも含めた運営体制を検討する。	B	B	B	◎コミュニティ・スクールの存在を地域内に広く示せることが大切である。 ◎地域の学校支援の推進は図れていると思うが、コミュニティ・スクールとして多くの地域の方々に参加していただけるような体制ではない。 ◎コミュニティ・スクールについて町民への周知ができていないように思う。広報紙等で引き続き周知を図る必要性を感じる。  ★令和4年度が導入初期とはいえ、学校、地域、保護者、関係団体等はもとより全町民に事業の主旨、方向性、実施体制、事業効果等の周知が徹底していないと感じる。 ★小中学校運営委員会のあり方の議論や事業実施のキーマンとなる「学校と地域をつなぐコーディネーター」を早急に設置し、運営体制の骨格を整えてほしい。 ★事業が始まってまだ日が浅い。周知を進め、さらなる参加者増を目指してほしい。	25.コミュニティ・スクール推進事業 →広報、ホームページ等を通じ、コミュニティ・スクールの活動状況について継続的に公表し、認知度を高める。 また、地域と学校双方のニーズについて理解を深め、相互にメリットのある取り組みとなるよう協議を深める。 なお、地域と学校の橋渡し役となる「地域コーディネーター」の配置については、その役割と運用方法を整理したうえで、協議会の意見を踏まえ、検討を重ねる。

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

令和4年度三朝町教育事業計画における重点項目

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(7) 教育環境の充実 Ⅰ. 学校教育における質の向上	26. 教職員指導力向上研修事業	継続	教職員集合研修機会の提供 →年5回以上	幼児期から中学校まで連携した教育の充実を図るため、小中学校教職員を対象とした研修会等を開催した。 ・校内授業研究会（年3回） 講師：高旗浩志教授（岡山大学教師教育開発センター） 授業づくりについて講師を招へい（オンライン含む）し、公開授業、講演を通じて理解を深めた。 ・映像制作授業（年2回） 講師：服部勝孝氏（映像作家）	【成果】 大学教授を中学校に派遣し、特に対話的な学びの実現をテーマに研究を進めた。学びを深めるための手立てや支援について協議を重ね、学校全体で授業改善に努めた。また、小中学校それぞれで実施した授業研究会に相互に教員を派遣し、交流を図った。  【課題】 次年度は小中連携に係る職員研修を小中学校全職員を対象に実施し、小中連携についての意識の高揚を図るとともに、教科における連携や接続を行う。 また、ICTに関する研修についても、できるだけ学校の希望に添えるような形で実施できるよう検討する。	B	B	B	★研修を受けられた小中の先生方の評価を尊重する。	
(7) 教育環境の充実 Ⅱ. 学校施設の整備充実	28. 小学校施設整備事業	継続	実施設計内容に沿った建設工事の円滑な進捗管理	実施設計に沿って、新たな小学校施設の整備に向けた建設工事及び工事監理等の契約を締結し、本格的な工事に着手した。	【成果】 実施設計に沿って工事に着手し、関係者で協議を重ねながら工事を円滑に進めることができた。加えて、工事中の令和5年度に関するグラウンド使用等について、小中学校間の協議も行った。  【課題】 不測の事態が発生した際の関係者調整等、引き続き円滑に行っていく必要がある。加えて、特に中学校の授業等について支障をきたさないよう継続して配慮していく必要がある。	A	A	A	◎円滑に工事が行われているように思う。  ★三朝小学校新築移転に伴い、校庭（室外活動スペース）エリアが狭小となる。小中体育で連携して計画を立てているところだが、完成後の活用を含め、既定路線を軸としながらあらゆる可能性について引き続き検討していきたい。  ★中学校授業や部活に対して不便な面もあると思う。移動時間がかかる等あると思うが陸上競技場の活用等検討していく必要があると感じる。 ★円滑に工事が行われている。	28. 小学校施設整備事業 →工事中のグラウンド使用については、小中で連携して計画を立てているところだが、完成後の活用を含め、既定路線を軸としながらあらゆる可能性について引き続き検討していきたい。

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

（1）未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(1) 確かな学力の育成 I. 学ぶ意欲の醸成と学力向上	2. 学力アップ土曜学習事業	継続	中学3年生における標準学力調査の5教科正答率 →全国平均以上	中学校3年生を対象とした学力向上講座を夏季休業中に実施する。指導については、高校生ボランティアを活用し、生徒個々の課題に即した支援を実現する。  中学校…年11回	【成果】 高校生ボランティアの申込もあり、実施の準備を整えていたが、新型コロナウイルス感染症の爆発的な拡大により、校内でクラスター等も発生していたことから、中止とした。 ※目標値としては達成している。  【課題】 夏季休業中は土曜日開催よりも参加しやすいとの感想を聞いており、令和5年度も同様の期日で開催し、高校生ボランティアを活用する。	D	D	D	◎コロナ禍であったため、学習事業の中止は致し方ない。 ◎コロナ収束後は、学力向上講座を実施する等、子どもたちの学力アップに努めてもらいたい。 ◎とても良い取り組みだと思うので、来年度の取り組みに期待したい。 ◎高校生の活躍の場として、また、町内の生徒の交流の場としても、令和5年度はぜひ開催してほしい。  ★中高生相互に良い刺激になると思う。 ★コロナにより未実施は仕方ないが、タブレットを活用した遠隔授業などの実施は難しかっただろうか？	2. 学力アップ土曜学習事業 →タブレットドリルや問題集を使用した個別学習について、高校生ボランティアが直接関わりながら支援していく取り組み。直接の触れ合いが肝であるため、オンラインとせず、集合学習体制として実施したい。
(1) 確かな学力の育成 II. 教育課題に対応する教育の推進	4. 外国語指導助手活動事業	継続	英検I B Aリーディング・リスニングテストの総合スコア →英検4級合格レベル以上	英語授業の強化と国際理解を深める授業の補助を行い、国際理解教育を推進した。外国語指導助手を小中学校に各1名ずつ配置。 コロナ禍により着任が不規則であったが、令和4年12月に各校1名の配置となった。2名とも非常に優秀であり、日本語でのコミュニケーションも優れているため、児童生徒の英語活動に大きく貢献している。	【成果】 中学校2年生を対象とした英検I B Aでは、英検3級程度に到達した生徒が1/3となった。 2名のALTは熱意をもって児童生徒の英語学習に尽力している。生活にも慣れたため、今後の活躍に期待するところ。 2名とも教職員のみならず、児童生徒との関係も優良である。  【課題】 今のところ不安はないが、モチベーションを維持させるため、不安の払拭を始めとしたさまざまなサポートの充実が今後は必要。	A	A	A	◎ネイティブな英語に接する機会は大変貴重であり、英語を話したいという気持ちを育てることから、ALTに一層活躍の場を広げてもらいたい。 ◎外国語指導助手の活動がレベル向上に貢献していると思う。慣れない環境なので活動のサポートが大事。 ◎ALTがもっと活躍できる雰囲気や活動できる機会（活躍したくなる場）を担当者とALTで再考してほしい。  ★児童生徒にとって英語がより一層身近なものになるよう、生きた英語に触れる機会が増えればと思う。 ★成果が上がっていると思う。	4. 外国語指導助手活動事業 →小学校のALTが毎月各園を訪問する際、町教委も同行し、活動のサポートを行っている。MESPが見直され、各園が同じ取り組みを進めることとなったので、計画的・継続的に取り組みを進める。 ALTは非常に優秀な人材で、町のイベント等にもよく顔を出している。今後は英語教室の開催等によりネイティブの英語を学べる機会を検討したいと考えている。本人たちの考えも尊重しながら、雇用条件に沿った中でALTの活躍の場を検討していきたい。
(1) 確かな学力の育成 III	5. 学校運営支援員配置事業	継続	特別支援に関する研修会 →年2回  就学前訪問 →各園年3回	教員の指導力向上や各種教育の理解のための指導助言及び研修会実施のコーディネート、さらには就学指導に係る連絡調整等を行うため配置する。 特別支援に関する研修会 年2回 町内外就学前訪問 各年3回  就学指導及び特別支援に係る研修会等を計画し、関係機関と連絡調整しながら実施する。	【成果】 各学校及び園の担当者と連携しながら適切な就学指導に努めた。移行支援会議には事務局職員が出席し、引き継ぎが丁寧に行われるようにした。また、必要に応じて医療連携を図った。  【課題】 移行支援会議で引き継がれた事柄が、就学後の適切な指導や支援、環境設定に活かされているかを確認し、必要に応じて指導や助言をすることが必要である。	A			◎全ての先生が特別支援の必要な児童生徒に対しての理解を深めるとともに、情報を共有し、適切な対応ができるように取り組んでいた。  ★個に合った適切な支援が行われていると思う。	
(1) 確かな学力の育成 III	6. 通級指導教室事業	継続	小中学校各教室の年間を通じた適切な運営	通級指導教室の適切な運営のための指導及び助言を行う。また、通級指導教室利用を検討する児童生徒について、在籍学級における状況を把握するための訪問を行う。 通級指導教室担当者会 年11回 学校訪問 随時	【成果】 定期的な通級指導教室担当者会により、指導目標を確認し、指導方法を共有した。児童生徒の入退級について担当者会で情報共有し、適切に処理を進めることができた。  【課題】 在籍児童生徒について支援目標を達成した後の退級や特別支援学級への就学等、保護者と丁寧に協議を進めていく必要がある。	A		A	★個に合った適切な支援が行われていると思う。	

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（70%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

(1) 未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
特別な教育的支援の充実	7. 特別支援教育事業	継続	特別支援教育に関する教職員アンケートにおける肯定的な回答→6割以上	支援が必要な児童生徒をサポートするため、支援員を配置し、授業中の問題行動や教室全体の授業環境改善を図った。 支援員を配置計画に沿って配置（小学校3人、中学校2人）	【成果】 個別支援が必要な児童生徒が特別支援学級だけでなく通常学級にも多く、担任だけでは十分な支援ができない中、支援員が個別の配慮を行うことで担任が全体指導に力を注ぎ、スムーズな授業運営ができた。 保健室や別室で過ごす児童生徒が増加しており、支援員が対応する場面も多い。  【課題】 個別支援が必要な児童生徒や不登校傾向の児童生徒、加えて別室対応の児童生徒がおり、配置された支援員だけでは対応が困難になってきている現状がある。各校の配置バランスや配置人数等を児童生徒の実態に応じて検討していく必要がある。 児童生徒への支援方法について、支援員に対する研修が不十分であることから、支援員を対象とした研修を実施していく。	A			◎現在も児童生徒の個性に合わせたきめ細かな支援が行われているが、引き続き教育関係機関が連携して取り組んでほしい。 ◎児童生徒への支援方法について、支援員に対する研修が不十分であると授業を見ていて感じる。支援員を対象とした研修を実施してほしい。 ◎不登校の生徒に対する家庭訪問を行ったり、個々に合わせての対応を行ったりすることは、本当に大変なことだと思う。今後も一人ひとりの児童生徒に寄り添い、より良い関係づくりを図っていただきたい。  ★児童生徒への支援はもちろんだが、親や家庭に対してのフォローもお願いしたい。 ★個に合った適切な支援が行われていると思う。	7. 特別支援教育事業 →担任と支援員の連携（役割分担、支援方法等の共有など）が十分でない、適切な支援に結びつかない。学校を訪問する機会をとらえて、学習の様子を定期的に参観し、指導助言していくとともに、管理職にも実態を把握するよう促し、適切な支援に結びつくようにしていく。 児童生徒への支援と保護者との連携及び保護者支援は一体化して進めていく。
	10. いじめ、不登校対策事業	継続	心の状況調査→小学校年1回、中学校年2回 調査実施後の個別教育相談→年1回	児童生徒一人ひとりの学校生活における心の状況を把握し、いじめや不登校の未然防止に努めた。 i-check調査実施（中学校年2回、小学校年1回） 調査後に、学級の状況について学年団でアセスメントを行い、その後の個別教育相談に活用した。また、要支援の結果を示した児童生徒については、生徒指導委員会等で取り上げて支援の検討につなげたり、保護者と情報共有したりした。	【成果】 i-check調査により、児童生徒の不適応状況を早期に把握し、学校全体で支援体制を構築するように努めた。家庭支援が必要な児童生徒については、外部機関との連携を進めた。  不登校児童生徒だけでなく、別室登校や放課後登校の児童生徒もおり、学校だけの対応には限界があるため、早期対応とともに、外部との連携をさらに進めていく。	A			◎不登校児童生徒数が減少していることは、早期の対応や教育機関、学校と家庭の連携等が機能していたものと思う。 ◎これからも、連携を図りながら支援する体制づくりに努めていただきたい。 ◎学校だけで抱え込まずに、外部諸機関との連携を今後も引き続き行ってほしい。 ◎不登校に至った背景や理由を保護者とともに共通理解し、個々の気持ちを第一に考えた関わりをお願いしたい。また、日ごろの児童生徒の様子を細やかに見ていただき、小さな変化等に気付けるよう努めていただきたい。  ★児童生徒への支援はもちろんだが、親や家庭に対してのフォローもお願いしたい。	10. いじめ、不登校対策事業 →すぐに答えを出そうとするのではなく、十分なアセスメント（見立て）が重要となることから、校内での組織的対応が必要。毎月の生徒指導担当者会で確認したことを管理職・教職員に周知し、適切に対応していく。 児童生徒への支援と保護者との連携及び保護者支援は一体化して進めていく。
(2) 豊かな心の醸成 I. 豊かな心の育成	11. 不登校対策支援員配置事業	継続	中学校不登校出現率→前年度以下	不登校生徒に対し、自宅への迎えなど、通学を促す支援を行った。 支援員配置（1名） 不登校児童生徒数 H30 5人 R元 19人 R2 15人 R3 15人 R4 9人	【成果】 各学校で不登校対応を学校経営の重点事項に掲げ、早期発見や未然防止に努めた結果、不登校児童生徒数は減少している。 中学校においては、1年生から進路学習を進めることで、中学校卒業後の姿を具体的にイメージするようにし、登校への意欲を高めるようにしている。  【課題】 学校を欠席した場合も家庭訪問を行ったり、オンラインで学習できる体制を整えたりしているが、その分、教員の負担は増している。支援員の増員やスクールソーシャルワーカーの配置等についても引き続き検討を続ける。	A	B	A	◎オンラインでの授業の実施等、環境整備に尽力してくださっていてありがたい。今後も継続した取り組みを期待している。  ★登校できるきっかけづくりのためのオンラインの活用や教室以外での授業参加等、個々に合った対応が求められる。本人、家族のフォローを継続してほしい。 ★個に合った適切な支援が行われていると思う。	
	12. 心の教室相談員設置事業	継続	心の教室利用者数→30人/月（平均）以上	生徒が抱えている悩みやストレスなどを軽減するため、心の教室を設置し、いじめや不登校を未然に防止する。 心の教育相談員を中学校に配置。 利用者数 185人/年 相談者数 59人/年	【成果】 月平均約18人の利用生徒に対し、相談員が優しく見守り、個々が抱える課題を気軽に相談できる関係を築くことができた。 不登校傾向の生徒に登校を促したり、玄関で出迎えたりしながら信頼関係を構築することで出席につなげることができた。  【課題】 各学級での生徒の様子を把握しながら、効果的な支援につなげる必要がある。 加えて、気軽に立ち寄れる場所となっているかどうかの確認も適宜行っていく。	B			◎利用が少ないことは悪いことではないが、相談に行きにくいという理由があるなら他の相談方法も必要。 ◎利用者が良い意味で減少すれば良い。 ◎誰でも気軽に立ち寄ることができる場所として設置されていることはとても良い。何気なく立ち寄れる場所が、いざ本当に自分が悩んだり困ったりした時に相談できる場としてあることは心強いことだと思う。  ★気軽に相談できる場があるということは大切だと思う。 ★個に合った適切な支援が行われていると思う。	12. 心の教室相談員設置事業 →電話相談、オンライン相談等、気軽に相談できる方法を検討する。

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

（1）未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(3) 健やかな体の育成 Ⅱ. 健康教育の推進	13. 命を大切にする学習事業	継続	授業実施回数 →各校年2回以上	子育て支援の専門家が小中学校を訪問し、学習をとおして命への畏敬や育児の喜びを学ぶ取り組みを行った。 助産師を招へい。 小学校2回 中学校2回	【成果】 話を聞いたり、体験的な活動を行ったりすることで、命の大切さについてあらためて気づき、家族や友達を大切にする心情も深めることができた。なお、講師招へいを行わない学年においても、年間指導計画に基づき、命を大切にする教育を実施している。  【課題】 これまでの学習の流れを大切にしながら、自分の命の大切さを学習する取り組みについても取り入れていく必要がある。	A	A	A	◎自分を含め、全ての命を大切にすることが必要であり、あらゆる機会をとおして命を大切にする教育を実施してもらいたい。 ◎引き続き、自己肯定感が高まる日々の教育実践に期待する。 ◎命が誕生すること、人間だけではないさまざまな命があること、その大切さを伝えていくのと同時に、命はみんないつかはなくなることも学ぶ学習であってほしい。  ★戦争や残虐な事件が報道で流れている。全ての命は尊く大切さを学ぶことが大切だと思う。 ★一発花火にならないように、講演後にも学習が継続されるようお願いしたい。	13. 命を大切にする学習事業 →人権教育とも深く関わる学習である。発達段階や社会情勢等も踏まえながら、講師と学習内容を検討していく。
(5) 豊かに関わる力の育成 Ⅱ. 多様な交流活動の充実とコミュニケーション能力の向上	17. 大人の背中運動	継続	学校と連動し児童生徒を主体としたあいさつ運動の実施 →年3回	あいさつ、美化、整理整頓など基本的な生活習慣を身に付けさせ、豊かな人間関係を育むことに努めた。 始業式から5日間、あいさつ運動を実施。	【成果】 地域の協力を得ながら、毎学期のあいさつ運動を実施した。子育て12か条の中にもあいさつの大切さを訴える項目を入れながら、各家庭での啓発にも努めていただいた。  【課題】 働き方改革で教員の協力を得ることが難しいところもあるが、期間中に学校職員の姿が少しでも見られるように検討する。	A	A	A	◎概ねあいさつはできており、子どもからだけでなく、大人からも積極的にあいさつする意識が高まれば良いと思う。 ◎あいさつをすれば返ってくるが、声を掛けられることが少ない。 ◎教職員にあいさつしても返してもらえず、とても心が痛んだ場面があった。児童生徒にあいさつを求める前に大人のあいさつを徹底する必要があると感じた。 ◎地域のさまざまな方に協力してもらい、町民皆が児童生徒に目を向け、お手本を見せる活動として今後も続けてほしい。 ◎大人のあいさつをどうしていくか課題。  ★子どもが生きていくうえで大切なことは、大人の背中から伝わる何かを感じ、理屈抜きで自らの生き方を形作っていくことかもしれない。そこには強い大人もあり弱い大人もあり優しい大人もある。あいさつ運動だけでなく、コミュニティ・スクール推進事業や学年別親子会、「みささ青空体験塾」などを通じて大人と子ども相互のコミュニケーションの場づくりと実施方法等を工夫してみたい。  ★あいさつ運動以外でもあいさつをすることが当たり前の地域づくりが大切。 ★学校は地域のさまざまな人材資源を必要としている。これは、コミュニティ・スクールの推進にもつながるものと考えている。	17. 大人の背中運動 →あいさつに限らず、児童生徒に伝えたい大切なことが大人自身もできているかを振り返る場は必要であり、学校においては、職員会等の場で定期的に伝えていくこととする。 社会活動がコロナ禍前に戻りつつあり、PTA活動、地域の活動も活発化してくると思われる。児童生徒、保護者に向けて、さまざまな交流の場への参加を促し、大人の頑張る姿、楽しそうな姿等から、子どもたちが気付き学ぶ場となるよう、学校と地域と一緒に取り組むを進めていくことが望ましいと考える。

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

(2) ふるさとを学び・愛する「みささ人（びと）」の育成

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(4) ふるさと愛の醸成 I. ふるさとを愛する教育の推進	19. 創意と特色ある学校づくり推進事業	継続	各校で独自の特色ある学習の実施	各学校ごとに創意工夫した事業に取り組み、特色ある学校づくりと児童生徒におけるふるさと愛の醸成に努めた（補助事業）。 小：感性豊かな児童の心を育むふるさと学習等（消耗品等） 中：映像製作を通じた学習による生徒の理解と教員の活用力の向上（外部講師招へい）	【成果】 三朝町ふるさとキャリア教育年間計画に基づき、小学校では地域の方から生け花を学ぶなど、感性豊かな児童の心を育む体験活動を主に行った。中学校では映像製作のカリキュラムに基づき、各学年で必要な技能を身に付け、外部発信に取り組んだ結果、文化祭や卒業式で用いる映像の制作にも生かされた。  【課題】 年間計画の内容が適切に実施できたかどうかを把握しながら、必要に応じて加筆修正していく。また、映像を利用した三朝町PRの活動について計画的に実施していく。	A			★コミュニティ・スクールと地域学校協働活動としての位置付けを明確にし、小学校は児童の豊かな感性を引き出す効果を目指してほしい。また、中学校は県下でも先進的な取り組み実績を重ねている「映像制作」の創造性と技術を更にレベルアップさせ、三朝町のPR活動（外部発信）や中学生交流事業などに生かし、個でも仲間とでも活動を通じて積極性と自信を力に変え、大いに活躍してほしい。 ★地域の方々と交流し、学びを得ることはとても大切なことだと思う。今後も特色のある学習を継続してもらいたい。 ★専門的知識や技能をお持ちの方から直接指導を受けることは、個々のスキルの向上につながることも、職員の負担減にもつながると考える。	
	20. 総合的学習事業	継続	各校で体験学習の実施	農業や職場体験など価値ある体験を通じ、主体的に学ぶ力や豊かに表現できる児童生徒を育成することに努めた。 小学校：農業体験、郷土学習 中学校：職業体験など	【成果】 コロナ禍であったが、可能な範囲で体験的な活動を実施した。一部、オンラインによる取り組みとなったところもあるが、児童生徒にとっては貴重な体験となった。  【課題】 田植えや稲刈り等は、その場限りの活動となってしまうため、継続して米作りに関わることができるような工夫が必要である。	A	A	A	◎いろいろな職業を体験することは、子どもたちにとって貴重な経験になることはもとより、三朝町全体で子どもたちを育てているという意識が醸成されることから、一層幅広い体験学習を実施してもらいたい。 ◎旅館のPRパンフレットを作成する等の取り組みは経営者にとっても有益であったと思うので、このような体験をおとした取り組みを継続して行ってほしい。 ◎教室の授業ではなく、実体験で学ぶことで得られるものは多いと思う。今後もどんどん取り組んでいただきたい。  ★自らの人生観や職業観は、成長の過程で得た貴重な経験や実体験に基づき形成されることが多いと思う。町の地域資源や人的資源に触れ、感じ、創造的な動きにつながることは何より有意義だと考える。 ★昨年の小3が取り組んだ「三朝温泉旅館PRパンフレット制作」等は真にさまざまな要素を上手く組み合わせられていて素晴らしい学習だったと感じた。実体験は子どもたちの感性を刺激し、豊かに大きく育つことは間違いないと思う。 ★いろいろな職業体験をすることでいろいろな発見・視野が広がると思う。子どもたちは体験をおしてより身近に感じることで、受入側もよい刺激になると思う。 ★体験後、「楽しかった」の感想は良いが、キャリア教育のねらいを正しく指導したうえで学習や研修をすることが大切。	20. 総合的学習事業 →体験をすることがねらいとならないよう、総合的な学習の時間の目標を確認し、学年に応じた探究的な学習活動が展開できるよう学校と確認する。

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（70%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

(2) ふるさとを学び・愛する「みささ人（びと）」の育成

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
	21. みささ町かがやく子どもフェスティバル開催事業	継続	来場者数 →500人 事業参画団体 →10団体	町内の子どもたちの活動や成果を発信するとともに、子どもたちと地域の大人たちが関わる機会を創出することを目的とし、今回のテーマを「体験」と位置付け、事業計画を作成。 今年度からステージイベントとして町内の芸能団体「因伯音」「三朝小唄を語り隊」に公演を行っていただいた。 来場者数392人、参画団体14団体。 参画団体の内、新規参画団体は3団体。 中学生ボランティア人数 59名。 主な行事 (1) ダンボール紙相撲大会みささ場所 (2) ステージイベント (3) 体験コーナー (4) 作品展示 (5) 食育コーナー	【成果】 中学生ボランティアを含めた総来場者数は392人で、昨年度の517人から125人減となった。要因として、昨年度と比較し新型コロナウイルス感染症が流行していたこと、悪天候だったことが考えられる。 しかしながら、会場内は賑わいが創出され、十分な参加者数だったと考える。 中学生ボランティアが昨年度から25名増。ミスのない運営という概念ではなく、失敗してもそれが体験であるという考え方のもと、中学生に運営の大半を任せ、能動的にボランティア活動を行ってもらえた。 【課題】 中学生までの参加は多いが、高校生の参加（活躍できる場）がない状況。今後は高校生、また鳥取看護・短期大学生といった10代後半の学生に地域で活躍できる場を提供し、町内における成人するまで絶え間ない活動環境の場を創出していきたい。	A			◎大人がサポートに徹することにより、一層実のある行事になると思う。 ◎子どもたちが集まる事業から、もっと子どもたちが中心となって運営や活動をする事業に変わってほしい。 ◎中学生ボランティアの活躍が良かった。いろいろな経験をとおして三朝町での良い思い出を作り、将来への糧となれば嬉しく思う。 ★児童生徒がボランティア等で地域のために汗を流すことはとても良いことだと考える。それが、ふるさと愛にもつながっていくと考える。	21. みささ町かがやく子どもフェスティバル開催事業 →子どもたちが主役となれるフェスティバルとなるよう、引き続き取り組みを展開していく。 特に、中学生については地域貢献の視点から、学校の外に出て主体的に活躍できる場となるよう仕組みづくりをしていきたい。
(4) ふるさと愛の醸成 Ⅱ. ふるさとに触れる機会の充実	22. 地域が育てる子ども総合対策事業	継続	あおぞら体験塾参加者数 →30人/回 体験塾に参加して楽しかったと回答した児童の割合 →70%	野外活動を中心とした体験活動を通じて、「やさしく」「たくましい」三朝の子どもを育成するとともに、子どもの健全育成、親子・地域のつながりを創出かつ向上させることを目的に開催。 事業の企画・運営をNPO法人里山地域研究会に事業委託することで、子どもにとって地域の大人と深く交流する機会が創出できる。 全12回予定のうち、11回開催（1回は新型コロナウイルス感染症流行のため中止）。延べ267名の児童、176名の保護者が参加。 1回の参加者数平均…児童27名、保護者18名。 アンケートから見る満足度 回答児童の85%が「よかった」と回答 回答保護者の100%が「満足」と回答	【成果】 参加児童が野外活動や、学校では学べない活動ができることに対する楽しさを感じていることが、アンケートから読み取れた。 児童だけでなく、保護者も本事業に高い満足度を持っていただいている。 また、本町社会教育委員会内でもこの事業に対する評価が高く「継続すべき事業」との意見をいただいている。 目標参加者数もほぼ達成し、満足度は目標値よりも大きく上回る結果となった。 【課題】 事業を受託しているNPO法人里山地域研究会では、スタッフの高齢化が課題となっており、継続的に事業を実施していくための方策を検討する必要がある。 具体策として中高生、看護・短大生といったボランティア活動機会の創出、広報を推進していきたい。	A		A	◎『各家庭ではできない自然の中での体験活動が魅力で、親子そろっての参加が増えている』ということで、体験時だけでなく家庭に帰ってからの話題作りにもなり、同じ体験をとおして家族の絆を深める良い取り組みになっていることがわかる。今後も継続して取り組み、成果を上げてほしい。 ★野外体験活動を中心とした「みささ青空体験塾」の取り組みは、その事業内容と実績において素晴らしいものであり大いに評価できる。事業受託していただいているNPO法人里山研究会に敬意を表したい。 ★今後事業継続するにあたり、スタッフの高齢化が課題となっているが、三朝町が他に誇れる活動として各方面の知恵を結集し、この課題をクリアしていただきたい。 ★なかなか家庭ではできない屋外活動や体験ができ、とてもいい事業だと思う。 ★数年前、井土で植樹があり子どもと参加した。よい取り組みだと思ったが、数か月後に家族で行ってみると手入れがされておらず残念に思った。継続して関わることで子どもや親も感じるものがあると感じた。 ★学校は地域のさまざまな人材資源を必要としている。これは、コミュニティ・スクールの推進にもつながるものと考え。	22. 地域が育てる子ども総合対策事業 →みささ青空体験塾は、貴重な子育て・親育ちの機会であり、今後も継続実施していく。 また、本事業について、各種広報媒体を活用し、町内外に周知を図る。 さらに中部圏域の大学、高等学校、中学校へボランティアの募集を行い、スタッフを確保するとともに、青少年の本事業への参画を促す。

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

(2) ふるさとを学び・愛する「みささ人（びと）」の育成

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
	23. 青少年育成町民会議補助金事業	継続	時代に即した青少年育成活動の支援 賛同団体 →5団体以上	青少年育成鳥取県民会議と連携して各種青少年育成事業への支援等を行った。 長期休暇の「やくそく」「生活心得」配布 啓発資料の配布 (SNSトラブル、違法薬物等) 「家庭の日」ポスター募集 中学生のボランティア活動推進を目指した取り組みの実施 ボランティア研修 子どもフェスティバルの参画 本会のあり方について検討を開始 少年補導委員協議会との統合 より具体的な活動方針に基づく新組織の検討	【成果】 中学生のボランティア活動機会の創出という新たな視点で事業を実施。 県民会議連携事業 SNSトラブル防止標語 「とりのからあげ」コンテスト 動画部門 優秀賞 三朝中学校1名 「家庭の日」絵画・ポスター作品 中学校の部 優秀賞 三朝中学校1名 町内の青少年育成実践者及び学識経験者約10名が同会の趣旨に賛同。新体制として協議が行える体制を整えた。令和4年度終了時点での賛同団体は9団体。  【課題】 啓発を続けている取り組みはあるものの、同会として特筆すべき成果を上げるに至っていない。 同じく青少年健全育成を目的にしている少年補導委員協議会と令和6年度に組織統合し、新たな青少年育成活動体として再スタートする予定。	C			★学校は地域のさまざまな人材資源を必要としている。その反対に、児童生徒も地域に出ていく仕掛けは大切な試みだと思う。	23. 青少年育成町民会議補助金事業 →町内青少年育成団体である「青少年育成三朝町民会議」と「三朝町少年補導委員協議会」を、一つの活動体として統合する。名称については既存のものにこだわらず、新たな名称として活動をスタートさせることも検討する。 また、新たな活動方針として「青少年の地域参画推進」を柱に取り組みを展開し、子どもたちが地域で活躍できるよう、地域参画の推進を実現するための仕掛けや、地域に対するコーディネート等をテーマに活動を展開していく。
(5) 豊かに関わる力の育成 I. 社会参画意識の醸成	24. 青少年団体育成事業	継続	中学生・高校生参画事業の実施 中高生のボランティア参加	中学生ボランティアの募集（事業単位） 【実績】 1 みささ青空体験塾 (1) 7月「川遊びとBBQ」 →8人の応募 …感染症流行の影響で中止 (2) 1月「雪遊び」 →7人が参加 2 かがやく子どもフェスティバル →59人が参加  中高生ボランティアサークルの設立には至らず。 →高校生の町内におけるボランティア活動の場を創出できなかった。	【成果】 昨年に引き続き、かがやく子どもフェスティバルでは中学生の運営ブースを設置。また、その他業務スタッフの生徒も、自分から仕事を探し、能動的に活動している姿が多く見られた。  【課題】 中学生のボランティア機会は例年並みだったが、高校生が町内でボランティア活動を行う機会を創出できなかった。中学生と異なり、高校が町外に所在していることもあり、効果的な呼びかけができなかった。 令和4年度に町内で中部地区の高校生を対象とした「中部ハイスクールフォーラム」を開催。これを機に、来年度に向けて社会教育事業へ高校生の参画を計画している。 令和5年度に向けて、鳥取看護・短期大学の学生が町内でボランティア活動ができる機会の創出を計画中。 看護・短大生の活動を町内の中高生に身近に感じてもらい、小学校から中学、高校、大学（短大）と一貫した自走可能な学生のボランティア活動体設立を目指す。	B	B	B	◎南部町が行っている高校生サークルのように、時間がかかるかもしれないが、三朝町の高校生が町内で活躍できる場所の創設が望まれる。  ★児童生徒が活躍できる場の設定は大切。 ★高校生の巻き込みはなかなか難しいと思うが、活躍の場面等の創出により参加を目指してほしい。	24. 青少年団体育成事業 →地域で活動できるボランティアサークルの中核として、鳥取看護・短期大学生の三朝町内への参画を推進するとともに、町内在住の高校生や三朝中学校生徒にもボランティア情報を積極的に発信するなど、年代に適した情報発信手段の検討を行う。 また、青少年育成三朝町民会議や三朝町社会福祉協議会と連携し、青少年のボランティア活動に対する支援を行う。

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

(3) 安心・安全な教育環境整備と地域と共に歩む学校づくり

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(7) 教育環境の充実 II. 学校施設の整備充実	27. 学校施設維持修繕事業	継続	小中学校緊急的維持修繕への対応	小中学校施設の維持修繕を行い、安全で安心して学ぶことができる環境を整備した。 小学校東側水路清掃 中学校消火器更新 中学校危険物倉庫雨樋修繕工事	【成果】 対応が必要な修繕工事等の全てを完了。 【課題】 各施設とも老朽化により修繕必要箇所は多数あるが、財源の関係上必要最低限の対応に留め、優先順位をつけて対応する。	A			◎今後も安心・安全を最優先とした整備をお願いしたい。 ◎新校舎完成まで、今後も修繕箇所が出る可能性がある。児童生徒が安全に過ごすための修繕について予算等配慮していただき、常に安全な環境を整えてもらいたい。 ★三朝小学校新築移転後の旧三朝小学校施設を、まちづくりセンター、子育て支援、児童クラブ、町民グループ活動、軽スポーツ活動等あらゆる角度で有効活用できるよう協議、検討を進めていただきたい。 ★今後も整備をお願いしたい。 ★教育環境整備は、大切なこと。予算確保をお願いしたい。 ★学校側はそれを成果で返すことが大事。	27. 学校施設維持修繕事業 →緊急的な維持修繕はもちろんのこと、小学校施設整備を念頭に、計画的な学校施設の維持管理を行っていききたい。 また、現在の小学校校舎の跡利用については、関係課と協議して検討を進めていききたい。
	29. 教科書改訂特別事業	継続	学習指導要領改訂及び特別支援学級への進級に伴う教師用教科書・指導書、デジタル教科書等の整備	学校からの要望を受け、教師用教科書・指導書等の整備を適切に行った。	【成果】 学校の要望に沿った整備を行い、教員の指導環境を整えた。 【課題】 特になし	A	A	A	★教育環境整備は、大切なこと。予算確保をお願いしたい。 ★学校側はそれを成果で返すことが大事。	
	30. OA機器等備品整備事業	継続	教育用サーバー一式更新 小学校校務用PC更新 小学校教室用プロジェクター整備	教育ICT機器を計画的に整備した。 教育用サーバー更新 小学校校務用PC 10台整備 小学校教室用プロジェクター 1台整備 その他、オンライン配信等に必要な機器	【成果】 計画通りICT機器の整備を完了。機器活用が進み、教職員の自発的な活用が促進された。また、オンライン配信の積極的な活用が図られた。 【課題】 更新等考慮した継続的なICT機器整備予算の確保が重要。また、整備した機器について適切な運用を図りたい。	A			★教育環境整備は、大切なこと。予算確保をお願いしたい。 ★学校側はそれを成果で返すことが大事。	
	31. 調理センター施設管理事業	継続	施設の確実な点検の実施	調理機器、殺菌水衛生管理システムに関しては定期的に点検を実施している。また、毎月害虫防除作業を実施し、衛生管理に努めている。また、機器等に不具合が出た場合は直ちに修繕を実施している。	【成果】 建設以来、調理センター内部の床が傷んでおり、中部学校給食衛生管理研究会でも衛生面の指摘を受け、全面的に修繕した。 【課題】 今後も機器等に不具合が出た場合は直ちに修繕し、安定した給食の提供に努める。	A			◎健康に大きな影響を及ぼす施設なので、衛生管理には十分注視していただきたい。 ★教育環境整備は、大切なこと。予算確保をお願いしたい。 ★現在小学校を建設中。施設の移転もあるなら、修繕等が後手に回らないようお願いしたい。	31. 調理センター施設管理事業 →計画的に維持管理を進めていききたい。

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（70%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

(3) 安心・安全な教育環境整備と地域と共に歩む学校づくり

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(7) 教育環境の充実 III. 児童生徒の通学支援	32. 放課後児童対策事業	継続	利用希望児童受入率 →100% 指導員研修の実施 →年1回以上	旧小学校区単位で放課後児童の居場所づくりとして学童クラブを設置。三朝西は直営、三朝東は三徳地域協議会へ運営を委託し、年間を通じて児童の居場所づくりに努めた。 令和4年11月末より、新小学校建設工事に伴い、学校稼業日の三朝西学童クラブを三朝小学校の多目的室で開所することとなった。指導員研修の機会は年2回、それ以外にも年2回程度、自由参加型研修の案内を行った。	【成果】 全学年の利用希望児童を受け入れることができてきた。また、今年度も打合せや内部協議に指導主事を入れたことで、学校との連携を図る体制の構築を図った。 なお、西学童クラブの小学校での開設についても、大きなトラブルなく対応できた。  【課題】 今後も西学童クラブについて、施設改修や運営方針の検討を小学校施設検討と併せて進めていく必要がある。また、児童の安全な利用のため、指導員の確保が急務である。併せて、施設の老朽化によりエアコン等が不調であるため、可能な限り修繕等を行い、十分なクラブ運営ができるように配慮したい。加えて、指導員の確保と障がいのある児童の受入体制について整備する必要がある。	A		A	◎学童クラブについては、今後も指導員、保護者や学校等と連携を図って、安心・安全な場所の提供に努めてもらいたい。 ◎指導員の十分な確保が子どもの安心できる居場所にもつながる。 ◎障がいのある児童も含め、全学年の児童を受け入れるにあたり、指導員の知識等の向上を図る必要があるのではないか。研修会2回は少ないように感じる。また、学校と保護者と学童クラブの連携をもっと強化する必要があると感じる。 ◎支援に必要な児童の受入もあるため、各学童クラブに1人でも専門知識や経験のある指導員がいるのが望ましいと感じる。  ★近年、学童クラブの民間委託の傾向があるようだが、三朝町の放課後児童対策事業の位置付けを再認識し、専門性の高い指導員の確保を図り、保護者、学校との連携を密にし「三朝らしい学童クラブ」を目指していただきたい。 ★保護者との連携と安心安全な場所として、校舎移転後の旧三朝小エリア（校舎、校庭、体育館）内で整備してはどうか。 ★今後も家庭、学校、指導員と連携を密にとり、子どもたちが安心して過ごせる場であってほしい。	32. 放課後児童対策事業 →指導員からも同様の意見が上がっており、これまでの研修は継続しながら、各学期2回程度、町教委と指導員の打合せの際に事例に基づいた問題解決方法等を指導主事や学校側から学ぶ機会を提供し、連携強化及び専門知識を得る機会とする予定としている。 指導員を募集してもなかなか応募がなく、既存の指導員も体力的に継続が厳しい状況となっている。学校を退職された先生が現在もおられ、専門的な知見により指導等をされているが、体力的にも毎日の指導は困難。できる範囲と現在の人材により可能なことはするが、いずれにしろ人口減少及び高齢化による人材不足は解消されないため、その中でできることをしたい。 新校舎移転後は小学校エリアの安心安全な場所で開設したいと考えており、関係課と調整を図っている。また、民間委託はメリット、デメリットを比較、検討したうえで委託の是非を判断し、意見としていただいた「三朝らしい学童クラブ」を目指したい。
	33. 高校生等遠距離通学費補助金事業	継続	補助対象生徒の制度利用率 →90%	集落から役場までの通学費補助に加え、県が実施する高校生補助制度を活用し、定期券購入者（7,000円以上）へ補助を行った。 補助制度利用率93.0% 制度利用者107人／対象者115人 ※対象者は入寮者及び他補助受給者除く	【成果】 県制度の拡充もあり、例年より遠距離通学者を持つ家庭の経済的負担を軽減できた。  【課題】 制度が複雑であり、制度内容が難しい旨の声をいただくため、今後も補助申請者へわかりやすい制度説明が必要。	A			★高校生の自転車ヘルメット購入支援も検討いただきたい。	33. 高校生等遠距離通学費補助金事業 →自転車を通う生徒にも距離に換算して補助金を出しており、その範囲内で購入できると考えるため、新たにヘルメット購入補助をすることは考えていない。
	34. 小中学校遠距離通学費補助金事業	継続	補助対象児童生徒の制度利用率 →100%	小学校は定期券の現物給付と最寄りのバス停まで距離がある児童へ補助。 中学校は2km以上の距離を通学する全生徒に補助。	【成果】 遠距離通学児童生徒の保護者における経済的負担を軽減した。  【課題】 特になし	A				
	35. 就学援助事業	新規	対象者への必要な援助の実施	就学援助対象者 小学校 43名 中学校 29名	【成果】 経済的困窮世帯に対し、学用品費、給食費等の支援を行い就学の支援を行った。  【課題】 ひとり親世帯の増加など金銭的な部分も含めた支援の継続	A				

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

（4）生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(2) 豊かな心の醸成 II. 情操教育の推進	36. 中学校運動部活動外部指導者派遣事業	継続	必要な外部指導者等の配置 →外部指導者3人、外部指導員3人	部活動の充実・発展を図るため、外部指導者3名及び部活動指導員3名を派遣した。 【外部指導者】 ・バレーボール部1名 指導回数28回 計54時間 ・野球部1名 指導回数28回 計70時間 ・バスケットボール部1名 指導回数41回 計76時間 【部活動指導員】 ・バスケットボール部1名 指導回数35回 計128時間 ・サッカー部1名 指導回数77回 計200時間 ・野球部1名 指導回数73日 計142時間 町部活動指導者研修会 年1回	【成果】 外部指導者3名及び部活動指導員3名を配置し、専門性を生かした部活動指導を行って、県大会出場等の成績につながった。また、顧問（教員）の負担軽減を図ることができた。  【課題】 休日における地域移行を踏まえ、令和5年度は中学校に「地域移行検討協議会」を設置する。部活動指導員、外部指導者の配置については、今後、地域移行の動向も考慮しながら配置していく。	A	A	A	◎今後も引き続き、定期的に指導者と状況確認を行いながら適正に指導をしていただきたい。 ◎地域移行の動向が不透明で具体的な対策が示されていない状況ではあるが、部活指導体制はしっかり整えて対応願いたい。  ★中学校運動部活動の環境は劇的に変化している。外部指導者及び部活動指導員の確保と、地域移行に伴う的確で安定的な運営体制の構築が急務だと思う。 ★地域移行に関しては体制がはっきりしておらず、不安が大きい。中学校単位での活動ができないのは残念に思う。 ★今後、システムが大きく変わる。国や中体連等の動きにあった支援を検討してほしい。	36. 中学校運動部活動外部指導者派遣事業 →公立中学校における部活動の地域移行に関し、県体育保健課から7～8月頃に方針が示される。三朝町においては、令和5年度に部活動地域移行検討委員会を設置し、協議を進めていくこととしている。
	37. 三朝町スポーツ少年団補助金事業	継続	団員数 →160人  単位団指導者研修会、支援の実施	令和4年度スポーツ少年団団員数 159名（令和3年度 154名） 本補助金では主に指導者に係る費用（年間謝金、保険料、全国スポーツ少年団登録費用、指導者資格講習会費用等）や単位団の育成強化費を支援している。	【成果】 団員数は微増で、目標団員数をほぼ達成。コロナ禍で活動制限がある中、団本部の指針を順守し、単位団でも感染対策を徹底する等、厳しい状況の中でも工夫しながら活動を続けることができた。  【課題】 剣道スポーツ少年団が団員数0となったことで休部状態となる一方、20名を超える団も複数ある等、競技によって団員数が大きく異なる。日本スポーツ協会公認資格を持つ指導者が不足している課題もある。資格取得には自己負担で数万円必要となることから、指導者となる人材の負担も大きい。	A	A	A	◎中学生の部活動地域移行に向けて進む中、三朝町は山間部が多くあり、交通の便も良くない地域がたくさんあることから、現在のスポーツ少年団についても、保護者の就労等で交通手段に困っているという声が聞かれる。この点の改善策も検討していかなければならない。  ★児童生徒がスポーツに取り組む有益性を認めながらも、他の要因で一緒に活動できないケースが多くなってはいないか。実態を探りながら、指導者の人材確保と併せて対応をお願いしたい。 ★中学校の部活地域移行の課題と併せ、小中一体化の指導体制も視野に入れ検討できないか。	37. 三朝町スポーツ少年団補助金事業 →保護者の就労実態を鑑みながら、多様なスポーツ少年団活動への参加方法について必要に応じて検討する。 また、中学校の部活動地域移行の動向を踏まえつつ、まずは休日のスポーツ活動の受け皿となれるかどうか、指導者の確保も含めて検討する。
(3) 健やかな体の育成 I. 体力向上の推進	38. スポーツ推進委員活動事業	継続	スポーツ推進委員主催事業の企画・実施（スポーツ教室など）	本町における生涯スポーツの普及推進を図るとともに、スポーツ推進委員の資質向上のため、各種研修に委員を派遣する。令和4年度から、少人数による協議効率の向上及び意識向上を目的に3つの分野で検討を進めるチーム制を導入。 スポーツ推進チーム 健康増進チーム 研修・広報チーム	【成果】 チーム制を導入したことで、委員間のコミュニケーションが活発となり、より積極的な活動姿勢が見られるようになった。また、チームとして委員の役割を明確化したことで、担当分野に対して自己研鑽する様子も見られる。昨年度からモルックをさまざまな場所で紹介していることから、徐々にスポーツ推進委員の派遣依頼が増えてきた。  【課題】 アフターコロナを見据え、これまで蓄積してきたアイデアをいかに実行できるか。事務局主導ではなく積極的な委員主導の活動を目指す。	A	A	A	◎スポーツ推進委員の活動内容、特に派遣できるということを町民に広く知ってもらうことが必要ではないか。  ★小学校の親子会が、天候が悪い時中止になることがある。ニュースポーツ等で交流ができればいいと思う。 ★中高における運動部活動は、今後大きな転換期を迎える。地域の受け皿の整備が急務である。	38. スポーツ推進委員活動事業 →スポーツ推進委員の活動意欲が高まっている現状を踏まえ、同委員の活動について各種広報媒体を活用し、周知を図りながら、町民のスポーツ・レクリエーション活動の裾野を広げていく。 また、中学校部活動地域移行の動きを踏まえつつ、休日のスポーツ機会の創出について検討する。
	39. 三朝町体育協会委託金事業	継続	各種スポーツ大会等参加者数 →1,800人	体育協会主催行事延べ参加者数 604人 ヨガ教室延べ参加者数 延べ233人 郡スポレク祭参加者数 延べ333人 中部駅伝大会参加者数 延べ16人 →合計 延べ1,186人 昨年に引き続き剣道大会や野球大会等がコロナ禍で中止となった。新たな取り組みとして、三朝町スポーツ・レクリエーション祭を大幅にリニューアルし、さまざまなスポーツブースを設け、順番に体験していく「スポーツバイキング」を開催。	【成果】 新たに開催したスポーツバイキングは、参加者は少なかつたものの町内外から参加をいただき、アンケートにおいて全ての回答者から本事業に「満足」「次回も参加したい」という評価を得た。事業全般において、参加者からの満足度は高い。  【課題】 体育協会の会員数が年々減少傾向にある。スポーツ団体の支援はもちろん「スポーツ機会の創出」「加盟のメリットや加盟しやすさ」という観点で組織のあり方について検討したい。	B	A	A	★中高における運動部活動は、今後大きな転換期を迎える。地域の受け皿の整備が急務である。	39. 三朝町体育協会委託金事業 →中学校部活動地域移行の動きを踏まえつつ、まずは休日のスポーツ活動の受け皿となれるかどうか、指導者の確保も含めて検討する。 また、普段スポーツ活動に触れることが少ない町民に視点を置き、多様なスポーツ事業を展開する。

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

（4）生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(3) 健やかな体の育成 II. 健康教育の推進	40. 食育推進事業	継続	県産地消率 →95%以上  園小中の食育取組成果発表 →年1回  給食レシピ公開 →月1回以上	さまざまな経験をとおして「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活と食を通じた健康管理を実践することができる児童生徒の育成に努めた。 地産地消率 96% 園小中の食育取組成果発表 年1回（文化ホール掲示） 給食レシピ公開 年7回（町報に掲載） ※3回に1回は町内旅館調理師のレシピを掲載するようになった為、掲載回数が増えた。	【成果】 地産地消 生産者と積極的に連携を図り、地域の特産を生かした給食の提供と郷土愛を育てる支援を行った。 食育指導 小学生による生産者へのインタビューを企画し、生産者の思いを子どもたちに伝えることができた。  【課題】 地産地消 生産者の高齢化により、今後の町産食材の調達難が懸念される。 食育指導 コロナ禍で給食訪問を行いつらい状況だが、校内放送やICTを活用するなど、安全性を確保しながら工夫する必要がある。	B	A	A	◎三朝町の食育に対する意識は高く、子どもたちにも地産地消が浸透している。 ◎とても素晴らしい取り組みをしておられ、他町村の方にも褒めてもらうことが多々ある。胸を張って、今の取り組みを継続して行ってほしい。 ◎園小中の食育取組成果発表が文化ホール展示のみというのはいらないので、より多くの人に見てもらえるような方法を検討してほしい。  ★地産地消の取り組みは諸課題を解決しながら、郷土の農産物や特産品を子どもたちの記憶に残すためにもぜひ継続していただきたい。 ★子育て世代の親の関心事は「食」だと思う。特に幼児～小中学校の期間に、保護者とともに安全で安心な食材で健全な心身を育む視点を大切にしていきたい。 ★とても良い取り組みだと思う。 ★県内トップクラスの取り組みだと考える。継続してほしい。	40. 食育推進事業 →令和5年度は、図書館での展示を検討することとしたい。

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(2) 豊かな心の醸成 I. 豊かな心の育成	41. 人権啓発講演会等事業	継続	人権講演会・講座等参加者満足度 →80%以上	人権教育講座（7月～10月） 参加者268人・5回／前年435人・5回  第29回差別をなくする三朝町集会（R4.11.6） 参加者113人／前年参加者166人	【成果】 人権教育講座 コロナ禍であり参加者が伸びなかった。全ての講座で8割以上が新たな気付きがあったと回答 差別をなくする三朝町集会 満足度85.4%（大変良い、良い）  【課題】 人権教育講座 興味を持ちやすいテーマの選定。 参加者の固定化。 差別をなくする三朝町集会 講演会講師の選定 参加者の固定化 30代以下の参加者が少ない。	C			◎コロナ禍であり、参加者が少ないのは仕方がない。 ◎人権教育は継続した学習が必要であるので、引き続き工夫をした開催をお願いする。 ◎参加された方の満足度は従来高く、参加されない方の参加率向上を目指したい。子育て世代に興味のある的を絞ったテーマでの開催など。  ★大切な取り組みである。コロナも5類に移行した。さらに充実させてほしい。	41. 人権啓発講演会等事業 →学習機会の提供の場として継続して取り組むだけにとどまらず、日時・テーマを工夫し開催することで、これまで参加したことのない人が参加したくなるような講座を計画していく。
	42. 人権教育推進協議会委託金事業	継続	人権学習機会の創出 学習活動延べ参加者数 →1,000人	人権学級（9月～12月） 16集落参加者197人 人権啓発番組 人権学級等に参加できない方の学習機会として三朝中作成の人権劇(15分)をケーブルテレビで放送 NCNで1月から3月まで毎日3回放送 部落解放月間に伴う人権標語募集・表彰 小中学校から6作品を推薦してもらい、チラシ広報に利用 郡同和対策協議会の人権標語に応募 人権啓発リボン・バッジの作成・着用（7月～8月） 町内事業所、保育所、小中学校、役場各職員等へ依頼 大会派遣 第47回人権尊重を実現する鳥取県研究会 15名参加（人数制限のため） 第73回全国人権・同和教育研究大会 2名参加（人数制限のため） 広報誌 共に生きる 1月発行 人推協だより 3月発行 人権意識調査 7月実施 人権教育推進5ヵ年計画（第7次）策定	【成果】 人権学級 コロナ禍ではあったが16集落が開催することができた。 三朝中との連携により人権啓発番組を放送し、人権教育に触れる機会を提供することができた。  【課題】 人権学級 コロナ禍を理由に開催しない集落に対し積極的な声掛けをする。 継続して取り組んでいくことが重要であり、他の集まる機会を活用した出前講座や、人権啓発DVDなどの貸出、テレビやインターネットなどを活用した啓発活動も併行して取り組む。	B	B		★大切な取り組みである。コロナも5類に移行した。さらに充実させてほしい。	
	43. 人権教育推進員設置事業	継続	人権教育推進員のコーディネートによる人権教育の実施	人権教育推進員を確保できなかった。	【成果】 なし  【課題】 人権教育推進員を早期に配置し、啓発活動に取り組む。 人権啓発活動を企画し、町民が人権教育に触れる機会を積極的に提供していく。	D				
44. 移動図書館サービスの充実	継続	各園・学童クラブ5か所 →月1回  各集落・事業所等26か所 →月1回	移動図書館 延べ356か所 集落15か所、施設・事業所10か所、 保育所・支援センター4か所 →移動図書館貸出 48回（3保育所+支援センター） →西学童クラブ（月2回） 4～11月…本の貸出 12～3月…読み聞かせ →中学校（概ね月1回）	【成果】 新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みながら、移動図書館車を概ね計画どおりに運行できた。また、悪天候（降雪）により中止の場合、代替日を設定し運行できた。 集落巡回で新規利用者が2名あった。  【課題】 高齢になって、介護施設へ入所される方などがあり、集落巡回の利用者が段々と減少してきている。	A			★交通手段のない方にとってはとてもありがたい事業だと思う。引き続き本に触れる機会があると良いと思う。 ★さまざまな企画が素晴らしい。		

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(2) 豊かな心の醸成 II. 情操教育の推進	45. 子どもたちの読書活動と学習活動を支援	継続	お話し会（各園・支援センター・美術館等）→58回 小中学校学習資料貸出→3,500冊 子どもが楽しめる行事→年2回	お話し会 50回 保育所 29回 支援センター 11回 バイオリン美術館 10回 母子検診時に読み聞かせ 7回・配本10回 西学童 読み聞かせ 6回（12月～） 学習資料等貸出 小学校1,666冊 中学校 637冊 図書館サイコロくじ 子どもフェスティバル共催 ものづくりコーナー（あそびの広場協力） おはなし会（鳥取短期大学学生協力） クリスマスコンサート（バイオリン美術館協力）	【成果】 お話し会に手遊び等を取り入れて内容が充実した。西学童について、小学校の新校舎建設に伴って場所が変更となったことにより、本の貸出しを行わないこととなったが、本に親しむ機会を失わないように読み聞かせをすることとした。子どもフェスティバルでは、おはなし会で鳥取短期大学の学生の協力が得られ、学生、参加者の親子共々、充実した内容となった。また、バイオリン美術館の協力により、クリスマスコンサートが実施でき、大変喜ばれた。  職員の読み聞かせ研修を実施し、会話スキルのさらなる向上を目指す。また、読み聞かせボランティアの発掘・育成を行い、読書活動を推進していく協力者を増やす。	A	A	A	◎子どもは特に、サイコロくじなどのイベント時には図書館へ行くことが多くなるように思う。今後も新しいイベントの企画を期待する。  ★一般的に幼児期の人格形成は3歳くらいに形成され、10歳くらいまでに確定されると言われている。その時期に子どもと親との関わりにおいて「本との出会い」が重要かつ最も影響力のある栄養素となるのではないかと思う。その観点から、例えば全都道府県の優良図書、推薦図書などの情報収集と優良図書グループの活動事例等を参考にしながら、三朝町独自の「本に親しむ環境づくり」を学校、保護者の意見を取り入れながら、もう一段ステップアップした取り組みを工夫していただきたい。	45. 子どもたちの読書活動と学習活動を支援 →令和5年度は、夏休み企画「サイコロとしゃかんくじ」について中学校図書室と連携し、学校で借りた本についてもスタンプ押印することとして、中学生の読書活動を後押しできればと考えている。 乳幼児期・保育園で培ってきた絵本などの読み聞かせによる本に親しむ習慣や、絵本が好きという子どもが、就学後も本との関わりを継続できるよう、小中学校の図書室と連携を図りながら、できることから取り組みたいと考えている。令和4年度から県立図書館に協力していただき、学校図書室を含めた連絡会を概ね月1回開催している。4年度は学校図書室の役割や司書のスキルアップを図る内容の研修を行ってきた。5年度は司書教諭の先生にも参加いただき、今まで以上に図書室の活用を考えていく機会として、研究授業の実施を計画している。日々の子どもたちの読書活動に接している学校図書室を、町立図書館として支援していきたい。
	46. 乳幼児の読書に親しむきっかけづくり	継続	ブックスタート→年4回 ブックセカンド→24組 健診時のおはなし会→7回	ブックスタート 21組 6か月健診を利用して絵本の楽しさ、重要性を親子に体験してもらう。絵本等をプレゼントする。 ブックセカンド 18組（1歳誕生日前後） 民生児童委員の自宅訪問事業（顔合わせ）に協力。 好きな絵本2冊をプレゼントし、その後の図書館利用につなげる。 健診時お話し会（2歳、5歳） 2歳のびのび 3回 5歳児健診 4回 健診時絵本配本（3歳児 3回）	【成果】 幼児期に親子で図書館利用の契機となっている。出生数が減少しているが、着実な図書館利用につながっている。  【課題】 子どもへの絵本の読み聞かせに関し、保護者への啓発が必要。	A	A	A	◎展示の内容について、例年にないものもどんどん取り入れていただけたらと思う。  ★一般的に幼児期の人格形成は3歳くらいに形成され、10歳くらいまでに確定されると言われる。その時期に子どもと親の関わりにおいて本との出会いが重要かつ最も影響力のある栄養素となるのではないかと思う。その観点から、例えば全都道府県の優良図書、推薦図書などの情報収集と優良図書グループの活動事例等を参考に、三朝町独自の「本に親しむ環境づくり」を学校、保護者の意見を取り入れ、ステップアップした取り組みを工夫していただきたい。 ★防災無線でいろいろな展示等されているのだなと感じていた。	46. 乳幼児の読書に親しむきっかけづくり →令和5年度から月1回、館内でのおはなし会を計画している。対象は未就学児の親子で、幼いうちから親子で絵本に親しむ機会としたい。
	47. 人と本の出会いの場づくり	継続	テーマ選書展示→20回 教室の開催→24回	テーマ選書展示 51回、うち他団体・町民の展示12回 季節の話題・社会情勢等の中からテーマを選び、関連図書を期間限定で展示して利用者の資料利用の動機付けとする。 （児童向）母の日・父の日特集／梅雨特集／ひな祭り／節分／クリスマス特集／こどもの読書週間／ハロウィン特集 等 （一般向）日本遺産PR／本屋大賞／自死予防対策キャンペーン／汽車・木工作品／着物のリメイク／芥川賞・直木賞特集／認知症予防 等 教室（英語村） 月2回（第2、第4土曜日）計22回	【成果】 月毎に展示を入れ替えて本の紹介ができた。また、雑貨やPOPを上手に活用して利用者の興味を引く展示となったので貸し出しになる本が多かった。着物のリメイク展は、新聞記事にいただいたこともあり、鳥取市など遠方から見に来られた方も多くあった。  【課題】 今後も定期的実施して内容の充実を図るほか、展示に協力していただける機関を増やす。	A	A	A	◎展示の内容について、例年にないものもどんどん取り入れていただけたらと思う。  ★一般的に幼児期の人格形成は3歳くらいに形成され、10歳くらいまでに確定されると言われる。その時期に子どもと親の関わりにおいて本との出会いが重要かつ最も影響力のある栄養素となるのではないかと思う。その観点から、例えば全都道府県の優良図書、推薦図書などの情報収集と優良図書グループの活動事例等を参考に、三朝町独自の「本に親しむ環境づくり」を学校、保護者の意見を取り入れ、ステップアップした取り組みを工夫していただきたい。 ★防災無線でいろいろな展示等されているのだなと感じていた。	47. 人と本の出会いの場づくり →作品展示などの館内展示に付随して、関係する書籍等を展示し、本との出会いを創出することを今後も継続する。 新春企画「本の福袋」は、普段自分では選ばない本との出会いの機会となっている。令和5年度も継続して実施する予定。 令和5年度、町制70周年記念事業として「ブラインド・ブック・マーケット」事業を計画している。未知の本や新たな本との出会いの創出、本の循環や本を通じた人と人との心の交流の機会となればと考える。
(3) 健やかな体の育成 II. 健康教育の推進	48. 家庭教育支援推進事業	継続	園、学校における子育て親育ち講座の開催数→園3回、小中学校各1回	子育て期の保護者への学習機会の提供として、子育て・親育ち講座（県補助事業）を町内各保育園、小中学校に実施を呼び掛け、講師費用等を支援。 【実施講座】 ・「絵本の大切さと読み聞かせの仕方」 講師：山陰こどものとも社 末宗智彦氏 対象：1園（竹田保）、参加者28名 ・「子育て12か条で伝えたいメッセージ」 講師：即興書家 TADA氏 対象：全小中学校・園、参加者42名	【成果】 読み聞かせの重要性や子どもの興味を引くコツ、忙しい中でも自分の時間を大切にすることなど、親として子どもとどう関わるかについて考える機会となった。  【課題】 コロナ禍の影響で減少していた講座の開催を増やすとともに、令和4年度の合同開催のようにより参加しやすい開催方法を検討する。	B	B	B	★引き続きの開催を希望する。	

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(4) ふるさと愛の醸成 I. ふるさとを愛する教育の推進	49. 生涯学習講座「三朝大学」開催事業	継続	町民の生涯学習機会の提供 受講者の年間満足度 →80%以上	全8回の講座を実施（講座内容は受講者代表7名と意見交換の上、決定している）。 事業申込者数 45名 平均受講者数 26名 平均出席率 58.3% 全8回のアンケート結果 「講座内容に興味を持てた」平均87.3% 「理解しやすい内容だった」平均82.3%	【成果】 全体的な講座テーマについて、受講後に「興味を持てた」と回答する割合が87%となり、講座の目的を達成することができたと考えられる。 令和4年度は町民を講師に選定する等、「身近な人から学ぶ」というテーマで好評を得た。 【課題】 新たな講師やテーマ等、受講者が興味を持てるような講座内容を提案していきたい（講師の知名度ではなく、テーマの面白さや珍しさ等）。	A	A	A	◎各講座の前段に特殊詐欺対策や交通マナー（ルール）等を簡単に学習できれば、社会問題の対策もできると思う。 ◎多くの方に参加していただけるような内容はもちろん、日時設定も考慮してはどうか。	49. 生涯学習講座「三朝大学」開催事業 →既存の講座運営方法に捉われないミニ講座の複数回開催等、柔軟かつ町民のニーズを踏まえた開催方法を検討する。
	50. 気軽に利用しやすい図書館づくり	継続	入館者 →25,000人 登録者 →6,500人 貸出冊数 →個人75,000冊、団体18,000冊、（移動15,000冊）	入館者数 23,020人 登録者数 7,153人 実利用者1,469人 貸出冊数 79,380冊※団体+個人 ・個人 65,530冊（館内 60,976冊、移動 4,554冊） ・団体 13,849冊（館内 7,114冊、移動 6,736冊）	【成果】 多読・安田千秋賞として、多読賞を表彰した（一般の部（高校生以上）・子どもの部（中学生以下））。読書意欲の向上につなげた。 【課題】 令和4年度は、3年度と比較して入館者数・貸出冊数とも減少した。ロードマップや「るぶ」といった旅行雑誌がよく貸出となっており、新型コロナウイルスによる旅行等の規制が緩和され、レジャー産業が復調してきたことが影響していると考えられる。 登録者数は多いものの、実利用者は1,500人前後であり、増加の取り組みが必要。 「書籍として読む」ことの動機付け、図書館に興味を持ってもらうことの事業を定期開催することも必要。	B			◎多読賞は、年齢問わず表彰の対象になることもあり、良い取り組みだったと思う。表彰された子どもたちはとても喜んでた。	
(4) ふるさと愛の醸成 II. ふるさとに触れる機会の充	51. より豊かで質の高い蔵書体系の構築	継続	蔵書 →110,000冊	令和4年度末蔵書 106,820冊 ・一般図書 61,881冊 ・児童図書 27,956冊 ・文庫本 4,437冊 ・郷土資料 6,446冊 ・点字資料 47冊 ・漫画 396冊 ・外国語資料 278冊 ・雑誌 3,417冊 ・視聴覚資料(AV) 1,962冊	【成果】 今年度は、除籍をすすめた。音楽等のCDの充実を図った。 【課題】 書庫のスペースの上限が見えてきた状況であり、蔵書資料の新鮮さを維持することからも、除籍を進める必要がある。おすすめ絵本の買換え及び複本の準備。	A				
	52. ニーズに応えるきめ細かなサービスの提供	継続	リクエストサービス →6,500件 相互貸出サービス →4,000件 相談業務（リファレンス） →2,000件 障がい者サービス →500件	予約処理 6,369件 相互貸借処理 貸出429冊、借受2,934冊 相談業務処理 1,386件 障がい者サービス（デジタル図書貸出）447件 多文化サービス（外国語資料のコーナーを継続設置、ディズニー作品や児童書等も配架し、より親しまれやすいサービスにつなげる）	【成果】 予約件数が前年に比べ少し増加した。また、相談件数（リファレンス）が倍増し、丁寧に対応することができた。また、相互貸借の対応も迅速に対応ができた。 【課題】 特になし。	A			★引き続き町民が求めるニーズに対応していただきたい。	

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
実	53. 情報発信の強化	継続	ホームページ更新 →月3回	月間予定、展示紹介などの内容を定期的に更新し、ホームページ閲覧件数の増加に努める。 更新50回 子育て応援Instagramへ新着絵本のお知らせを掲載（1回/月 5冊前後） 6回掲載（32冊紹介）	【成果】 今年度から図書館ホームページに『ちょっとひといき』コーナーを作り、ちょっとした出来事を随時掲載するようにした。図書館ホームページのアクセス数がかかるようにし、毎月少しづつ増えている。図書館行事や季節の展示について写真付きで広報した。町民課が開設している子育てに関するSNS（Instagram）に新着絵本の紹介を毎月掲載した。  【課題】 図書館利用について、よりわかりやすい案内の提供が必要。また、迅速な情報発信・更新を行うための情報収集に努める。	A			★今後のみささ図書館の大きな課題は「情報発信の強化」だと思う。”早い、楽しい、わかりやすい”をキーワードとし、ホームページ更新は毎日（せめて3日ごと）とし、鮮度の高い情報へのファン（固定層）を獲得し、利用者数を高めていただきたい。	53. 情報発信の強化 →図書館利用者のニーズを把握し、図書館ホームページや町民課のSNS（子育て応援Instagram）を活用して、鮮度の高い情報発信に努める（防災行政無線、町広報紙、ケーブルテレビ静止画CM・L字放送、新聞も事業内容などに応じて活用する）。
	54. 郷土資料の収集・適正管理保存・提供	継続	新規収集・適正保存 →100冊 展示による周知・継承 →年1回	郷土資料145冊を受入（購入9冊、寄贈136冊）。三徳山・三朝温泉コーナー及び郷土資料コーナーの充実。県内発行機関誌の整理及び雑誌コーナーで公開。国内外の姉妹都市関係資料の公開。日本遺産PR展示（2回、4/15～6/8、12/14～12/21）	【成果】 町職員のインフォメーション（お知らせ等の機能）にて、郷土資料の収集を呼び掛け、収集することができた。継続して呼びかけることとしたい。チラシやパンフレット、ポスターの配置を工夫し、PRに努めた。  【課題】 特になし。	A				
	55. 地域住民の活動発表、コミュニティの推進	継続	特集・共催展示 →10回 図書館行事 →10回 ミニ講座 →2回 図書館ボランティア推進 →5人	展示 14回（町民・関係機関・団体連携） 三朝中トライワークおすすめPOP本/バイオリン美術館展示/自閉症啓発/日本遺産PR/CIRマリーさん活動展示/男女共同参画/汽車・木工作品/着物のリメイク/認知症予防/自死予防キャンペーン/行政相談員制度/北方領土問題/児童虐待予防/河内一恵さん猫アート展 主催行事 各1回 サイコロ・としょかんくじ/古本市/本の福袋 子どもフェスティバル 図書館コーナー 読み聞かせボランティア協力 2名	【成果】 町民や団体、行政機関との連携・協力により、年間をとおした展示を開催することができた。CIRマリーさんの活動展示や安田千秋さんの着物のリメイク展示では、普段来館されない方々が多く来館された。  【課題】 令和4年度は、新型コロナの感染状況の予測が不透明だったため、講座等の開催を計画していなかった。ボランティアの育成、掘り起こしに努め、新たな発想から読むことの動機付けにつながるような事業を検討する必要がある。	A				
(5) 豊かに関わる力の育成 III. 視野の広い人材育成の推進	56. 未来を拓きみささっ子創造事業	継続	中学生が自分の将来の参考になったと答えた回答率 →70%	全国的に活躍をしておられる先輩方などを講師として招へいし、中学生を対象とした講演会を開催。将来に対する夢を描き、希望を持って夢の実現に向けて努力する「みささっ子」を育成する。 令和4年9月16日（金） 講師・講演テーマ スポーツライミング日本代表 ヘッドコーチ 安井博志氏 「チャンスを掴むために」 参加者 中学生149人、教員他21人 計170人 アンケート結果 「講演テーマに興味を持った」86% 「将来の参考になった」 「少し参考になった」 →合計95%	【成果】 講演テーマに興味を持った生徒が86%、将来の参考になった（少し参考になったを含む）生徒が95%と目標とする効果は達成できたと考える。また、世界で活躍されている先輩がいること、スポーツライミングという競技について生徒が学ぶ機会を創出できた。  【課題】 貴重な講演内容であったが、集中力が続かない生徒も見えた。話だけでなく、体験を入れる等五感を使った講演内容も考えられる。	A	A	A	◎生徒の成長のため、いろいろなジャンルで活躍している人の話を聞いてもらいたい。  ★世界で活躍される方が身近にいることを肌で感じるいい機会だったと思う。 ★学校単独ではお願いできないような有名な講師を招へいされ、素晴らしい。継続してほしい。	

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

（6）文化、伝統、地域資源（文化財）の継承と芸術の振興

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(2) 豊かな心の醸成 II. 情操教育の推進	57. 青少年劇場開催事業	継続	青少年劇場の開催 開催テーマに興味を持った生徒の割合 →50%	生徒を対象に優れた芸術を鑑賞する機会を提供し、豊かな情操を培い、健全な育成を図る。 演目 青少年「狂言」鑑賞会 令和4年6月30日（木） 小学生 90人 アンケート結果 「とても楽しかった」「楽しかった」…96% 「とても興味を持てた」「興味を持てた」…91%	【成果】 児童は、楽しむところは大いに楽しみ、静かに見るところは真剣に話を聞くなど、きまりよい態度で鑑賞していたことが印象的だった。 積極的に手を挙げて質問する姿も見られ、「狂言」という文化だけでなく「狂言師」という職業にも興味を持っていたように見られた。 出演されていた山本会の山本則秀氏は講演後に「今回の鳥取公演の中で一番リアクションがよく、気持ちよく演じることができた」と感想を述べられていた。 【課題】 特になし	A			★伝統文化に触れることはとても大切なことだと思う。 ★田舎にあって、なかなか鑑賞できない芸能等を生で観賞できる。継続してほしい。 ★本事業は児童生徒を対象にしているが、園児には同様なものがない。Aの成果を上げるような事業なら、町民課にも働き掛け、保小中合同の取り組みにしてはどうでしょう。	57. 青少年劇場開催事業 →保小中で連携した形の取り組みについても、担当課と可能な限り検討することとした。
	58. 三朝町将棋フェスティバル開催事業	新規	イベント参加者数 →80人 将棋啓発イベントの企画	従来、町内で将棋大会を開催してきたことで、県内外における町の将棋大会に対する認知度は高い。この実績を踏まえ、日本の重要な文化である将棋に対する関心を高め、親しみを深める機会を提供することで伝統文化の普及、振興に寄与する。 開催概要 令和4年11月26日（土） 町総合文化ホール 事業委託 日本将棋連盟鳥取県キッズ支部 参加者数 来場者61名、ゲスト・スタッフ13名 計74名 事業内容 ① 将棋大会 ② 指導対局会 ③ 将棋体験・将棋あそびコーナー ④ トークショー ⑤ 展示コーナー アンケート結果 「とても楽しめた」…100% 「次回も参加したい」…100%	【成果】 参加者数は少なかったものの、参加者から事業継続を強く要望される等、満足度は非常に高かったのは大きな成果であった。 将棋の裾野を広げるとい趣旨のもと実施する事業として一定の成果を感じた。この事業により対外的な三朝町の認知度アップにつながることもできると考える。 来場者やスタッフから話を聞くと、山陰地方ではプロ棋士を招聘するようなイベントがなく、今回のような事業は本当に貴重であると力説された。また、将棋大会はよくあるものの、今回のようにトークショーや将棋体験などを含めた将棋イベントは全国的にもあまり例がないとのことであった。 【課題】 全体的に満足度の高い事業であったが、目標参加者数を達成できなかったことから、将棋愛好者だけでなく、将棋の普及という観点からすると一般層の参加をさらに増やす取り組みが必要。 併せて、町民の参加が5名であったという実績を踏まえると、町民に対する取り組みがさらに必要である。	B	A	A	◎将棋に触れ合う機会を増やすという意味からも、大会以外の取り組みに期待します。	58. 三朝町将棋フェスティバル開催事業 →三朝町の新たな文化コンテンツとして、本事業の発展、推進を図るとともに、児童生徒をはじめとする町民が本事業に興味をもって参加いただける取り組み（将棋体験機会の創出、将棋にまつわる生涯学習講座等）を包括的に実施する。
	59. 文化振興事業	継続	三朝町文化サークルの支援 三朝町芸能文化祭の実施	文化芸術サークル 18団体 三朝町芸能文化祭 11月27日（日） 町総合文化ホール 出演団体数 10団体（延べ63人） 来場者数 延べ110人	【成果】 コロナ禍で活動を休止するサークルもあったが、状況に応じて継続した文化活動が実施された。 2年ぶりに芸能文化祭を開催。出演者、来場者とも満足度は高い様子が見られた。閉会後に演者と観客とが笑顔で言葉を交わす様子が見られ、芸能文化祭の場が一つの交友の場となっている。 【課題】 昨年度20団体が加盟していた連絡協議会だが、令和4年度は18団体に減少。同協議会の意向も踏まえつつ、会員数の確保などについて検討を要する。	B			◎文化祭の開催を心待ちにされている方がおられる一方で、出演者の方も張り切っておられる姿が見られた。かつて各地域で開催されていた祭の消滅等もあるため、町民の楽しみなイベントとして、今後も盛り上げていただきたい。	

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（30%～20%）

（6）文化、伝統、地域資源（文化財）の継承と芸術の振興

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R4目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R4) ★教育行政評価委員の意見(R4)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R4)
(4) ふるさと愛の醸成 I. ふるさとを愛する教育の推進	60. 三徳山遺跡発掘調査等事業	継続	調査成果の整理と報告 坂本バイパス計画地の試掘調査実施	三徳山世界遺産登録運動の一環として、継続して埋蔵文化財の調査を実施したが、発掘指導者の体調不良等により十分な調査ができなかった。 坂本バイパス計画地について、坪谷川左岸の試掘調査を行った（調査面積60㎡）。	【成果】 神倉「湯」地点での調査について、発掘調査は進まなかったが、発掘指導者、県との綿密な協議により、令和6年度末の報告書の作成について計画を具体化した。 坂本バイパス試掘調査は、当初の計画どおり実施できた。  【課題】 専門職員の不在等、職員の推進体制の不足を補完するため、県専門機関との連携が必須。報告書の作成に向けて、遺跡の重要性の根拠等を令和5～6年度の追加調査により明らかにする必要がある。	C				
	61. 世界遺産登録促進事業	継続	調査成果報告会 →年1回	三徳山の世界遺産登録への取り組みを推進するため、日本遺産事業と連携した講演会「三徳山講座」を開催した（参加者45名）。	【成果】 三徳山講座を開催し、世界遺産登録に向けた機運を高めた。  【課題】 これまでの「湯」地点での発掘調査の成果を踏まえ、今後継続して価値付けの調査を進めるべきかどうかの方針を、令和6年度作成の報告書の中で精査する。	B	B	B	★三徳山世界遺産登録の前段として、日本遺産登録の継続は必須事項であると考えている。 →三徳山の歴史的価値や魅力について、就学前の子どもたちにもわかりやすく触れてもらう機会を年齢層毎に創出することを検討する（例：紙芝居、読み聞かせなど）。	
	62. 日本遺産活用推進協議会補助金（保存事業）	継続	日本遺産三徳山三朝温泉を守る会の支援	条件付きで認定継続となったこと受け、「日本遺産を通じた地域活性化計画」に基づいて普及啓発活動に向けた日本遺産三徳山三朝温泉を守る会が実施する事業に補助金を交付し、日本遺産周辺の環境整備や三徳山行者道の補修（山護運動）などを実施し、普及啓発を図った。 また、地元小中学生を対象に日本遺産アンケートを実施し、その認知度や誇りに思うかなどの醸成度を検証した。	【成果】 会員や地元住民による環境整備や山護運動の実施が普及啓発につながっている。 また、地元の小中学生が三徳山や三朝温泉に触れる機会を積極的につくるよう推進した。  【課題】 改善目標の一つである守る会会員数の増加に向けた取り組みと併せ、さらなる普及啓発活動が必要。 また、日本遺産アンケートの結果をもとに、小中学生への効果的な普及啓発活動を模索する。	C			◎地元の三朝町民が三徳山や三朝温泉に触れる機会を積極的につくり、一部の方々だけでなく全員でファンになるような推進を願いたい。 ◎小中学生からのアンケートの内容も大いに参考にして、町民を巻き込んだ取り組みになるようにますます力を注いで取り組んでほしい。  ★小学校の授業や親子会、中学校の三徳山登山、温泉街散策等関わる機会をつくっておられる。続けて地元に関わる機会があればと思う。 ★三徳山世界遺産登録の前段として、日本遺産登録の継続は必須事項であると考えている。 保・小・中・高の категорияで、日本遺産継続のためには何が必要か、何ができるか戦略を練って取り組むことが必要。 ★当然、大人もだし、町外や観光客にも発展させてほしい。加えて、SNN等を活用し世界に発展してほしい。	61. 世界遺産登録促進事業 →三徳山の歴史的価値や魅力について、就学前の子どもたちにもわかりやすく触れてもらう機会を年齢層毎に創出することを検討する（例：紙芝居、読み聞かせなど）。  62. 日本遺産活用推進協議会補助金（保存事業） →従来の啓発活動と併せ、保護活動（山護運動、環境美化）など、町民が日本遺産へ実際に関わる機会を増やすことや、アンケート結果をもとに学校や集落などを通じた普及活動を模索し、認知度の醸成を図る。 また、日本遺産の歴史的価値や魅力について、年齢層に合わせて理解しやすい取り組みを検討する（例：読み聞かせ、リーフレットの作成など）。

## 9 教育委員の活動状況報告

### (1) 教育長・教育委員の在任状況

職名	氏名	就任(再任)年月日	任期(退任)年月日	保護者
教育長	西田 寛司	令和5年1月1日	令和7年12月31日	
教育長職務代理者	塩谷 俊樹	令和4年10月1日	令和8年9月30日	
委員	石田 仁樹	令和元年10月1日	令和5年9月30日	
委員	加藤るみこ	令和2年10月1日	令和6年9月30日	
委員	村岡 麻梨	令和3年10月1日	令和7年9月30日	○

### (2) 委員の異動

塩谷俊樹教育長職務代理者の任期満了に伴い、令和4年9月に開催された令和4年第7回三朝町議会定例会において、同氏を再任する議案を提案。全会一致で同意されました。

また、西田寛司教育長の任期終了に伴い、令和4年12月に開催された令和4年第9回三朝町議会定例会において提案された同氏を再任する議案についても、全会一致で同意されました。

### (3) 教育委員会会議の開催状況

#### ① 開催状況

定例会 12回(月に1回開催)

臨時会 1回(令和5年3月に開催)

毎月1回の定例会と1回の臨時会を開催しました。会議の内容としては、定例の教育行政にかかる議案や報告はもとより、コロナ禍における学校運営や今後の小中連携のあり方についても協議を重ねながら、各教育委員が高い意識を持って、それぞれの専門的見地から議論を行いました。

今後も、「三朝町教育大綱」及び「みささっ子教育ビジョン」の基本理念に基づき、目指す子ども像の実現に向けた各種施策に沿って具体的事業を進めていくための議論を重ねるとともに、地域に根差した特色ある教育活動を展開していくため、教育委員一人ひとりが地域教育行政の重要な決定の責を担っていることを常に自覚し、職務を遂行していかねければなりません。

#### ② 付議件数

区分	内容	件数
議案	規則等に関する事	9件
	議会の議決を経るべき議案に関する事	14件
	人事に関する事	8件
	委員の委嘱等に関する事	10件
	その他	3件
協議	児童生徒に関する事 ほか	15件

③ 会議の詳細

会議名（年月日）	議題等	内 容
第4回定例会 (令和4年4月22日)	第21号	専決処分の承認を求めることについて（令和4年度三朝町学校運営協議会委員の任命について）
	第22号	専決処分の承認を求めることについて（令和4年度小中学校校医等の委嘱について）
	第23号	令和4年度教育関係費補正予算（令和4年4月）について
	第24号	三朝町地域学校協働活動推進員設置要綱の設定について
	第25号	令和4年度小中学校主任及び主事の任命について
	協議	通級指導教室の指導希望について
	協議	三朝町男女共同参画審議会委員の推薦について
	協議	令和3年度分三朝町教育委員会の事務に関する評価について
第5回定例会 (令和4年5月27日)	報告	7件
	第26号	専決処分の承認を求めることについて（三朝町社会教育委員の委嘱について）
	第27号	専決処分の承認を求めることについて（町立みささ図書館協議会委員の任命について）
	第28号	令和4年度教育関係費補正予算（令和4年6月）について
	第29号	三朝町教育行政評価委員の委嘱について
	協議	通級指導教室の指導希望について
	協議	令和4年度国際交流の方向性について
第6回定例会 (令和4年6月28日)	報告	7件
	議事	なし
	協議	通級指導教室の指導希望について
	協議	令和4年度三朝町教育事業計画書について
第7回定例会 (令和4年7月21日)	報告	4件
	第30号	令和4年度教育関係費補正予算（令和4年7月）について
	協議	なし
第8回定例会 (令和4年8月26日)	報告	5件
	第31号	令和4年度教育関係費補正予算（令和4年9月）について
	第32号	令和3年度教育関係費歳入歳出決算の認定について
	協議	なし
第9回定例会 (令和4年9月28日)	報告	6件
	第33号	工事請負契約の締結について（三朝町立三朝小学校新築工事（教室棟））
	第34号	工事請負契約の締結について（三朝町立三朝小学校新築工事（管理棟・昇降口棟））
	第35号	工事請負契約の締結について（三朝町立三朝小学校新築工事（電気設備））
	第36号	工事請負契約の締結について（三朝町立三朝小学校新築工事（空調設備））
	第37号	工事請負契約の締結について（三朝町立三朝小学校新築工事（衛生設備））
	第38号	工事請負契約の締結について（三朝町立三朝小学校新築工事（プール棟））
	協議	三朝町教育委員会教育長職務代理者の指名について
協議	三朝町民生委員推薦会委員の推薦について	

	協議 報告	通級指導教室の指導希望について 8件
第10回定例会 (令和4年10月26日)	第39号 協議 報告	三朝町総合教育会議設置要綱の一部改正について 通級指導教室の指導希望について 5件
	第40号 協議 報告	令和4年度教育関係費補正予算(令和4年12月)について 通級指導教室の指導希望について 6件
第11回定例会 (令和4年11月28日)	第41号 協議 報告	通級指導教室の指導希望について 6件
	第42号 協議 報告	中学校外国語指導助手の再任用について 専決処分の承認を求めることについて(町立みささ図書館の臨時休館について) なし 4件
第12回定例会 (令和4年12月23日)	第41号 協議 報告	通級指導教室の指導希望について 3件
	第42号 協議 報告	三朝町いじめ問題調査委員会の設置について 3件
第1回定例会 (令和5年1月26日)	議事 協議 協議 報告	なし 通級指導教室の指導希望について 三朝町いじめ問題調査委員会の設置について 3件
	第1号 第2号 第3号 第4号 第5号 第6号 第7号 第8号 協議 報告	令和4年度教育関係費補正予算(令和5年3月)について 令和5年度教育関係費当初予算について 三朝町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について 三朝町立学校教職員の訓告等取扱規程の設定について 町立学校教職員の処分について 三朝町いじめ問題調査委員会委員の委嘱について 三朝町教育委員会表彰について 三朝町学校給食費単価の改定について 三朝町都市計画審議会委員の推薦について 6件
第2回定例会 (令和5年2月21日)	第9号 協議 報告	令和4年度末三朝町学校職員人事異動内申について なし なし
	第10号 第11号 第12号 第13号 第14号 第15号 第16号 第17号 第18号 第19号 第20号 第21号 第22号 協議 報告	三朝町教育委員会会議傍聴人規則の一部改正について 三朝町立小・中学校管理規則の一部改正について 三朝町人権教育推進員設置規則の一部改正について 三朝町立三朝中学校部活動指導員に関する規程の設定について 三朝町部活動地域移行検討委員会設置要綱の設定について 令和5年度三朝町学校運営協議会委員の任命について 町立みささ図書館協議会委員の任命について 三朝町心の教室相談員の任命について 三朝町スポーツ推進委員の委嘱について 令和5年度小中学校校医等の委嘱について 令和5年度小中学校職員等の配置について 三朝町教育委員会事務局職員の人事(出向)について 三朝町教育委員会事務局職員の任命について なし 6件
第1回臨時会 (令和5年3月9日)	第9号 協議 報告	令和4年度末三朝町学校職員人事異動内申について なし なし
	第10号 第11号 第12号 第13号 第14号 第15号 第16号 第17号 第18号 第19号 第20号 第21号 第22号 協議 報告	三朝町教育委員会会議傍聴人規則の一部改正について 三朝町立小・中学校管理規則の一部改正について 三朝町人権教育推進員設置規則の一部改正について 三朝町立三朝中学校部活動指導員に関する規程の設定について 三朝町部活動地域移行検討委員会設置要綱の設定について 令和5年度三朝町学校運営協議会委員の任命について 町立みささ図書館協議会委員の任命について 三朝町心の教室相談員の任命について 三朝町スポーツ推進委員の委嘱について 令和5年度小中学校校医等の委嘱について 令和5年度小中学校職員等の配置について 三朝町教育委員会事務局職員の人事(出向)について 三朝町教育委員会事務局職員の任命について なし 6件
第3回定例会 (令和5年3月28日)	第9号 協議 報告	令和4年度末三朝町学校職員人事異動内申について なし なし
	第10号 第11号 第12号 第13号 第14号 第15号 第16号 第17号 第18号 第19号 第20号 第21号 第22号 協議 報告	三朝町教育委員会会議傍聴人規則の一部改正について 三朝町立小・中学校管理規則の一部改正について 三朝町人権教育推進員設置規則の一部改正について 三朝町立三朝中学校部活動指導員に関する規程の設定について 三朝町部活動地域移行検討委員会設置要綱の設定について 令和5年度三朝町学校運営協議会委員の任命について 町立みささ図書館協議会委員の任命について 三朝町心の教室相談員の任命について 三朝町スポーツ推進委員の委嘱について 令和5年度小中学校校医等の委嘱について 令和5年度小中学校職員等の配置について 三朝町教育委員会事務局職員の人事(出向)について 三朝町教育委員会事務局職員の任命について なし 6件

#### (4) 小中学校及び園への計画訪問

本町の教育現場の現状と運営状況について把握するため、教育委員と事務局職員及び中部教育局指導主事が計画訪問を行いました。

学校計画訪問は年2回、半日ずつ小学校（前期：6月21日午前、後期：11月17日午前）と中学校（前期：6月21日午後、後期：10月18日午後）を訪問しました。その中で、懇談においては全国学力・学習状況調査等の結果をもとに学習の取り組みについて意見交換を行いながら、今後の進め方についての理解を深める場となりました。

また、町内の園については、訪問計画を立てたものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和4年度の訪問は中止としました。

##### 【教育委員の訪問内容】

- ① 各学校長（園長）への学校（園）運営等（具体的な取り組み）に関する聞き取り
- ② 保育、授業等視察
- ③ 職員との意見交換と指導、助言等

#### (5) その他の主な活動

継続的な検討事項であり、進捗確認の必要性がある小中連携とICT活用及びコミュニティ・スクールについて、総合教育会議及び教育懇談会を開催し、松浦町長及び総務教育常任委員会の各委員と意見交換や情報共有を行いました。

その他、各種研修会へ参加し、他市町村の教育関係機関と幅広い意見交換を行うことで、今後の本町における円滑な教育行政の推進に資する機会としました。

年 月 日	内 容	会 場
令和4年4月20日	鳥取県市町村教育委員会研究協議会・第1回理事会	セントパレス倉吉
令和4年6月1日	東伯地区教育委員会連絡協議会	湯梨浜町中央公民館
令和4年7月12日	鳥取県市町村教育委員会研究協議会理事会・定期総会・研究大会	セントパレス倉吉
令和4年7月29日	令和4年度第1回総合教育会議	三朝町役場
令和5年1月27日	市町村教育委員会委員研修会	倉吉体育文化会館
令和5年2月21日	令和4年度教育懇談会	三朝町役場
令和5年2月27日	令和4年度第2回総合教育会議	三朝町役場